〈心身障害学級「個別の教育支援計画」部会〉

研究主題

「心身障害学級（固定学級・通級指導学級）に在籍又は通級する児童・生徒一人一人の教育ニーズに応じた個別の教育支援計画の開発」

研究の概要

心身障害学級においては、個別指導計画の作成が定着してきたところである。 本部会は、教育、保健・医療、福祉、労働等と連携し策定する「個別の教育支援計画」の普及に努めていくため、以下の研究開発を行った。 ○　心身障害学級（固定学級・通級指導学級）の「個別の教育支援計画」の書式と策定手順について ○　支援組織の構築と「個別の教育支援計画」の活用について ○　心身障害学級（固定学級・通級指導学級）での活用事例について

Ⅰ　研究の目的

小・中学校の 心身障害学級（固定学級・通級指導学級）においては、「東京都特別支援教育推進計画」に基づき、平成19年度までに「個別の教育支援計画」の策定の準備を進め、関係機関等との連携による支援体制を構築していく必要がある。

本研究は、この「東京都特別支援教育推進計画」に基づき、心身障害学級（固定学級・通級指導学級）の「個別の教育支援計画」の策定に向けて、その書式や策定手順等の研究・開発を行う。

Ⅱ　心身障害学級（固定学級・通級指導学級）における「個別の教育支援計画」の作成と活用

1　「個別の教育支援計画」の目的

心身障害学級に在籍する児童・生徒や通級による指導の対象となっている児童・生徒については、関係機関と連携した学校全体での適切な対応や、障害のない児童・生徒との交流及び共同学習の促進、担当教員の専門性の向上などが課題となっている。

「個別の教育支援計画」は、障害のある児童・生徒の一人一人の教育ニーズを正確に把握し、適切に対応していくという考え方の下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的とする。

また、この支援は、教育のみならず、保健・医療、福祉、労働等の様々な側面からの取組が必要であり、関係機関、関係部局等との密接な連携協力を確保することが不可欠である。そのような意味からも、「個別の教育支援計画」は、各支援機関等が連携して、児童・生徒の一人一人の教育ニーズに応じた支援を効果的に実施するための計画であり、地域社会に生きる個人として、各支援機関が、連携協力し、的確・具体的な支援をしていくための道具（ツール）としていく。

2　「個別の教育支援計画」の策定の対象

「個別の教育支援計画」は、区市町村立幼稚園、小・中学校、都立高等学校に在籍する障害のある幼児・児童･生徒を対象(以下、「児童・生徒」という)に策定する。

本部会は、小・中学校の 心身障害学級（固定学級・通級指導学級）に在籍又は通級する児童・生徒のための書式を開発した。

3　「個別の教育支援計画」の具体的な内容

（1）　児童・生徒のプロフィール

・氏名、生年月日、性別等　・教育ニーズ　・在籍校　・前籍校等

＊教育ニーズとは、単に障害名や保護者の希望を言うのではなく障害に基づく種々の困難を言い、学校生活を送る上での課題を含めたものとする。

（2）　現在・将来についての希望

（3）　支援の目標、必要と思われる支援内容

（4）　在籍校の支援

（5）　支援機関の支援

・支援の領域　・支援機関名　・担当者　・連絡先　・支援内容

＊通級指導学級も支援機関の一つとする。

（6）　支援内容の評価と課題

（7）　支援会議の記録

（8）　作成日、作成責任者及び保護者確認欄

4　「個別の支援計画」と「個別指導計画」等との関連

（1）　「個別の教育支援計画」と「個別指導計画」の関連

学校が中心となって策定する「個別の教育支援計画」は、本人や保護者とともに策定することが必要であり、一人一人の教育ニーズに応じた様々な支援機関の連携を促すツールである。これに対して、「個別指導計画」は、「個別の教育支援計画」に基づき、学校教育の中で、児童･生徒の障害に応じた指導をきめ細やかに行うために一人一人の指導目標や内容、方法などを保護者との連携・協力のもとに各教科・領域にわって作成するものである。

また、各学校で実践した「個別指導計画」は、「個別の教育支援計画」の補助資料として添付し､一人一人の資料および記録としての役割をもつことになる。「個別の教育支援計画」の「支援目標」を達成するため、指導目標設定の重要さに加えて、指導の手だてを広い視野で考えていくことが必要である。

通級による指導においては、児童･生徒の保護者からの入級希望を受けて区市町村教育委員会の入級に関する委員会で必要性が判断されると、各学校では、通級指導学級と連携して、特別の教育課程を編成する。また、指導の内容や時間数を決め、通級による指導を開始するとともに「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を在籍校の担任や特別支援教育コーディネーターと連携・協力し策定・作成をする。

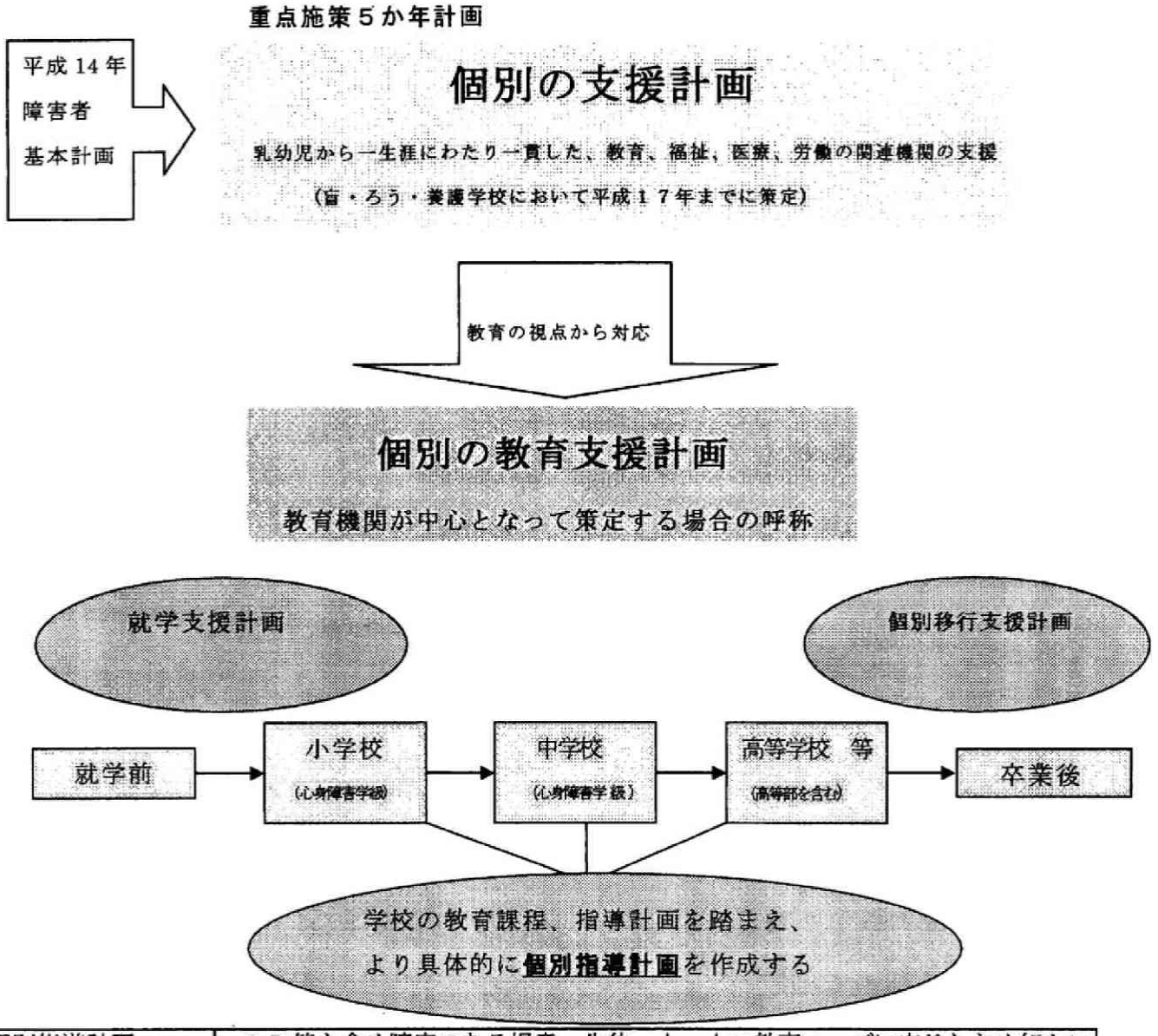
特に、「個別の教育支援計画」の策定に当たっては、本人を取りまく学校、通級指導

学級、医療や福祉などの地域機関と緊密に連携して、本人の教育ニーズに合った支援の目標を立て、計画的に支援していくことが必要である。

（２）　「個別の教育支援計画」と「就学支援計画」や「個別移行支援計画」との関連

「就学支援計画」や「個別移行支援計画」は、「個別の教育支援計画」に含まれるものであり、就学や就労の移行期に特に必要がある場合に作成するものである。

各種計画等関連図



個別指導計画	ＬＤ等を含め障害のある児童・生徒一人一人の教育ニーズに応じたきめ細かい指導を実現するために、学校が保護者からの意見等を十分に踏まえて作成する児童・生徒一人一人の指導計画のこと。
個別の教育支援計画	教育、保健・医療、福祉、労働等の連携に基づき、乳幼児から学校卒業までの一貫性のある支援を目的としてＬＤ等を含め障害のある児童・生徒一人一人の教育ニーズに応じて策定される計画のこと。
就学支援計画	ＬＤ等を含め障害のある児童・生徒一人一人の適切な就学や就学後の教育内容・方法の充実等を図るため、幼稚園、保育所、療育機関等の職員が保護者とともに作成する計画のこと。
個別移行支援計画	職業教育や進路指導の充実を図るとともに、盲・ろう・養護学校の高等部に在籍する生徒一人一人の自立と社会参加を支援するため、学校、進路先、保護者等がともに作成する計画のこと。

Ⅲ　「個別の教育支援計画」の作成と活用

1　「個別の教育支援計画」の書式例

（1）　固定学級に在籍する児童・生徒のための「個別の教育支援計画」書式例

個別の教育支援計画（表）　　固定学級在籍児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな		性別	生年月日	年　月　日生		歳
	本人氏名			保護者氏名			
	住　所	〒					
	電話番号			（　　）手帳	級・度	（平成　年　月交付）	
	教育ニーズ						
在籍校	立　　学校　　年　　組（級）			学級担任			
	住　所	〒		電話番号		ファクシミリ	
前籍校等				学級担任		電話番号	

現在・将来についての希望	
本　人	
保護者	

支援の目標

必要と思われる支援

在籍校の支援

支援機関の支援			
家庭生活	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
余暇・地域生活	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
医療・健康／教育相談	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:

支援会議の記録（予定も含む）		
日時	参加者	協議内容・引継事項等

作成日　　平成　年　月　日　＜新規・更新（　回）＞

区・市町村立＊＊＊＊学校長

作成担当

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成　年　月　日　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

支援の記録と評価（裏）

実施時期	担　当	内　容	評　価

個別の教育支援計画とは、このような計画です。

① お子さん（または、あなた）が、必要としている支援を適切に受けられるように、学校と保護者及び本人（あなた）と、関係支援機関とが協力して策定する計画です。

② 国の方針によって、平成１７年度から、都立の盲学校、ろう学校または養護学校に在籍する幼児・児童・生徒には、全員、この計画を策定することになりました。
　また、小・中学校の心身障害学級に通う児童・生徒や、通常の学級で支援を必要としている児童・生徒にも、今後この計画を作っていくことになります。

③ この計画の内容は、個人情報ですので、保護者や本人（あなた）の同意がない場合は、他の人に見せたり渡したりすることはありません。

④ 関係する支援機関とは、教育（今まで通っていた学校など）、保健・医療（病院や保健所など）、福祉（福祉事務所など）、労働（就労に関する相談機関や就職先など）、その他、保護者や本人（あなた）が支援を受ける機関をいいます。
　この計画づくりに必要な支援機関を、学校の担当者（担任）までお知らせください。

⑤ 計画は、はじめに、保護者や本人（あなた）と学校で作り、次に、支援機関の意見も聞きながら、計画を作り上げていきます。
　関係者が一堂に集まって話し合える場（「支援会議」といいます。）がもてるよう、調整していきます。

⑥ できあがった計画は、内容を必ず確認してください。
　保護者や本人（あなた）の了解がある場合は、表に書かれている支援機関にもこの計画の写しを渡して、適切な支援を実施するように努めてまいります。このことを、御了解いただける場合は、確認のサインをお願いします。
　渡してほしくない場合や、知らせたくない内容があれば、渡しませんので、御遠慮なく申し出てください。

⑦ また、新たに連携する関係機関など、この計画を渡す必要が生じたときには、その都度、連絡をいたします。

⑧ 計画は、原則として年度末に評価をし、必要な見直しをしていきます。必要に応じ、年度途中に、見直すこともあります。
　この計画に対する質問や要望がありましたら、御遠慮なく学校の担当者に申し出てください。

（2） 通級指導を必要とする児童・生徒のための「個別の教育支援計画」書式例

個別の教育支援計画（表）

通級指導対象児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな		性 別	生年月日	年 月 日生		歳
	本人氏名			保護者氏名			
	住 所	〒					
	電話番号			（ ）手帳	級・度	（平成 年 月交付）	
	教育ニーズ						
在籍校	立 学校 年 組（級）			学級担任			
	住 所	〒		電話番号		ファクシミリ	
前籍校等				学級担任		電話番号	

現在・将来についての希望	
本 人	
保護者	

支援の目標

必要と思われる支援

在籍校の支援

支援機関の支援				
通級指導学級	通級指導学級	通級開始 年 月	担当者:	連絡先:
	支援内容:			
家庭生活	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:	
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:	
余暇・地域生活	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:	
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:	
医療・健康／教育相談等	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:	
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:	

支援内容の評価と課題

支援会議の記録（予定も含む）		
日時	参加者	協議内容・引継事項等

作成日 平成 年 月 日 ＜新規・更新（ 回）＞

区・市町村立＊＊＊＊学校長
作成担当

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成 年 月 日 氏名

（3）　支援の記録と評価（裏）記入上の留意事項

支援の記録と評価（裏）

実施時期	担　当	内　容	評　価

時系列に記入する。

支援会議の内容を記入する。

支援会議に集まった支援機関についてすべて記入する。

支援会議の成果について記入する。

個人情報の取扱いについては、必ず保護者に説明する。

個別の教育支援計画とは、このような計画です。

① お子さん（または、あなた）が、必要としている支援を適切に受けられるように、学校と保護者及び本人（あなた）と、関係支援機関とが協力して策定する計画です。

② 国の方針によって、平成１７年度から、都立の盲学校、ろう学校または養護学校に在籍する幼児・児童・生徒には、全員、この計画を策定することになりました。

また、小・中学校の心身障害学級に通う児童・生徒や、通常の学級で支援を必要としている児童・生徒にも、今後この計画を作っていくことになります。

③ この計画の内容は、個人情報ですので、保護者や本人（あなた）の同意がない場合は、他の人に見せたり渡したりすることはありません。

④ 関係する支援機関とは、教育（今まで通っていた学校など）、保健・医療（病院や保健所など）、福祉（福祉事務所など）、労働（就労に関する相談機関や就職先など）、その他、保護者や本人（あなた）が支援を受ける機関をいいます。

この計画づくりに必要な支援機関を、学校の担当者（担任）までお知らせください。

⑤ 計画は、はじめに、保護者や本人（あなた）と学校で作り、次に、支援機関の意見も聞きながら、計画を作り上げていきます。

関係者が一堂に集まって話し合える場（「支援会議」といいます。）がもてるよう、調整していきます。

⑥ できあがった計画は、内容を必ず確認してください。

保護者や本人（あなた）の了解がある場合は、表に書かれている支援機関にもこの計画の写しを渡して、適切な支援を実施するように努めてまいります。このことを、御了解いただける場合は、確認のサインをお願いします。

渡してほしくない場合や、知らせたくない内容があれば、渡しませんので、御遠慮なく申し出てください。

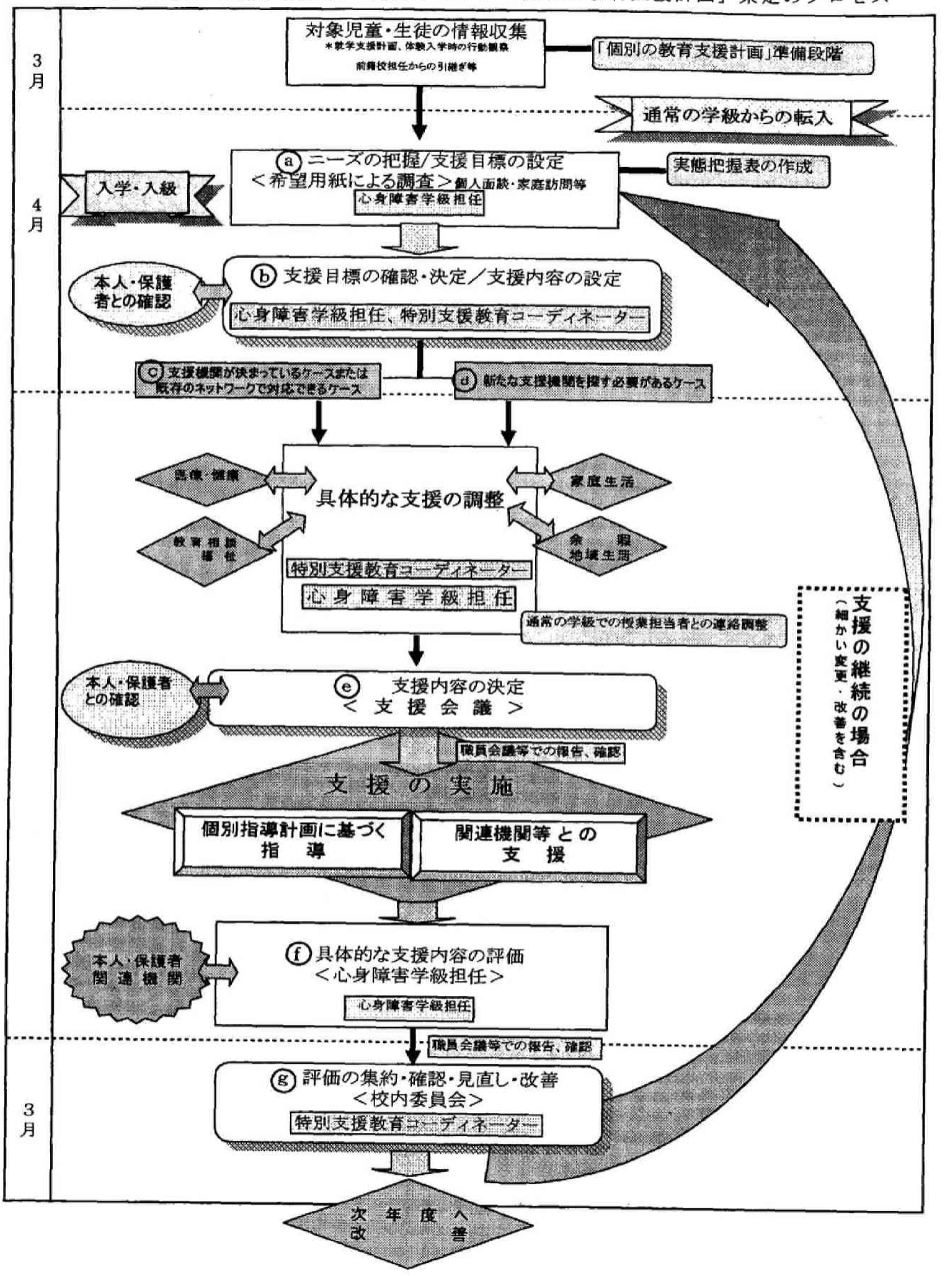
⑦ また、新たに連携する関係機関など、この計画を渡す必要が生じたときには、その都度、連絡をいたします。

⑧ 計画は、原則として年度末に評価をし、必要な見直しをしていきます。必要に応じ、年度途中に、見直すこともあります。

この計画に対する質問や要望がありましたら、御遠慮なく学校の担当者に申し出てください。

2　「個別の教育支援計画」の基本的な策定プロセス

（1）　固定学級に在籍する児童・生徒のための「個別の教育支援計画」策定のプロセス



① 策定のプロセス

ⓐ 教育ニーズの把握／支援目標の設定

・実態把握表を作成する。

・４月又はそれ以前に心身障害学級担任が、本人・保護者から、どのような教育ニーズがあるのか希望用紙を用いて聞き取る。個人面談、家庭訪問の機会をとらえての直接的な聞き取りも考えられる。

・４月中に本人、保護者との確認後、担任が支援目標を設定する。これに際して、新入生･転入生については、就学相談資料、就学（入学・転入学）前支援機関による指導資料や就学支援計画等を活用する。他学年については、引継ぎ資料等を活用する。

・設定された支援目標は、心身障害学級担任又は必要に応じて特別支援教育コーディネーターが調整･確認する。

ⓑ 支援目標の確認・決定／支援内容の設定

・校内委員会で、児童･生徒の実態と希望を考え合わせ心身障害学級担任により設定された支援目標が適切であるかどうかを検討の上、決定する。

・決定された支援目標を本人・保護者と確認する。また、この校内委員会で支援目標の達成のための具体的な支援内容も検討、設定する。在籍校で行う具体的な支援内容についても、この場で決定する。

ⓒ 支援機関が決まっているケース又は既存のネットワークで対応できるケース

・既に支援機関での支援がスタートしており、引き続き同様の支援内容を行っていく場合は、心身障害学級担任が調整を行う。

・既存のネットワークを利用して支援機関が決定できる場合も、心身障害学級担任が具体的な支援の調整を行う。

ⓓ 新たな支援機関を探す必要があるケース

・心身障害学級担任や特別支援教育コーディネーターを中心に、区市町村で設置する特別支援連携協議会（エリアネットワーク校運営連絡協議会、関連する学校、保護者等）と連絡を取り、適切な支援機関を探し出す。

ⓔ 支援内容の決定　＜支援会議＞

・支援機関決定後、支援会議を開く。

・支援会議は本人、保護者、心身障害学級担任、特別支援教育コーディネーター支援機関の代表が参加することを原則とする。

・本人、保護者の同意を得て支援内容が継続する場合など、電話連絡等で会議に代えることもある。

・個々の支援内容が決定したら、職員会議等で報告し、全職員の情報の共有化を図る。

ⓕ 具体的な支援内容の評価　＜職員会議･学年会＞

・本人、保護者、支援機関からの情報をもとに、心身障害学級担任が、校内の担

任会等で検討し、まとめる。その際、図画工作（美術）や音楽の教科担当が必要に応じて参加する。その結果を職員会議や学年会等で報告する。

ⓖ 評価の集約・確認・見直し・改善　＜校内委員会＞

・心身障害学級担任や特別支援教育コーディネーターを中心にして校内委員会で評価を、集約し、次年度の方向性を示す。

・支援の継続の場合は、再び「教育ニーズの把握／支援の目標」のプロセスへ戻り、前年度の評価に基づき改善を行う。

・新たな教育ニーズが出された場合や計画策定から３年を経過した場合は、再び「教育ニーズの把握／支援の目標」へ戻り、支援目標、内容の見直し・改善を行う。

② 固定学級に在籍する児童・生徒のための「個別の教育支援計画」の工夫

ア 期間について

・特別支援教育対象の児童・生徒の将来を見据え、長期にわたる支援の目標や内容を設定する必要がある。そのため、本部会では、「個別の教育支援計画」の見直し・改善を３か年とし、支援の目標、内容を記載することにした。毎年、年度末に心身障害学級担任や特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会での評価の集約、検討を通して、そこでの確認された内容をもとに、心身障害学級担任が１年ごとに加筆訂正し、場合により見直し・改善を行う。

・策定以降に出てきた新たな教育ニーズへの対応や大幅な修正が求められる場合には、３か年に限らずにその時点で新たな計画を立案していくことも考える。

イ 教育ニーズについて

・単に障害名や保護者の希望を言うのではなく障害に基づく種々の困難を言い、学校生活を送る上での課題を含めたものであるため、「盲・ろう・養護学校の個別の教育支援計画」では、「障害」となっていた欄を「教育ニーズ」とした。また、心身障害学級で学習することが、本人にとって適切である理由を記入するようにした。

ウ 関連する学校について

・特別支援教育においては、心身障害学級の児童・生徒も在籍校以外の特別支援学校（仮称）からの支援を受けるケースが考えられるため、今回の書式には、「前籍校等」の欄を作成することで、在籍校の記入だけでなく、通級指導学級等これまで関連してきた学校をすべて記録することを考慮した。

エ 在籍校の支援について

・交流及び共同学習はこの欄に記入するようにした。

オ 関連する機関について

・障害のある児童・生徒にとって教育ニーズは多様であり、支援機関も多様である。したがって、「関係の機関の支援」の記入欄は、「家庭生活」「余暇・地域活動」「医療・健康/教育相談」の３つを共通として、他の欄は、必要に応じ

て関係する支援機関名を記入するようにした。

カ　同意欄等について

・「個人情報の保護に関する法律」や「東京都個人情報の保護に関する条例」に従い、児童・生徒及び保護者の個人情報を適正に取り扱い、児童・生徒及び保護者の権利利益を保護するために、書式には保護者の同意欄等を加えた。

キ　支援記録と評価について

・「個別の教育支援計画」を策定し、支援を実施するためには、関係する支援機関の担当者が集まり、支援内容を確認することが必要である。支援の継続性を重視し、「いつ」、「誰が」、「何を話し合ったのか」について記録していくことが重要である。しかし、実際に支援機関の担当者が集まることはスケジュール上容易なことではない。そこで、支援会議の内容として「個別の教育支援計画」裏面の「支援の記録と評価」に記録できるように工夫した。これを、会議記録、支援経過と変容・評価の記録として使用し、「個別の教育支援計画」を修正する上での資料としていく。

③　支援組織の構築と「個別の教育支援計画」の活用

特別支援教育の対象の児童・生徒に対し、「個別の教育支援計画」を策定し、実施するためには、各校の実状に応じた組織を構築する必要がある。

ア　特別支援教育推進のための校内委員会の設置

・校長、副校長、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等を主なメンバーにして、校内委員会を設置し定期的に開催することにより、児童・生徒の日々の細かな変化や課題を様々な視点から確認し、話し合うことができ、より効果的な支援の方法を検討することができる。

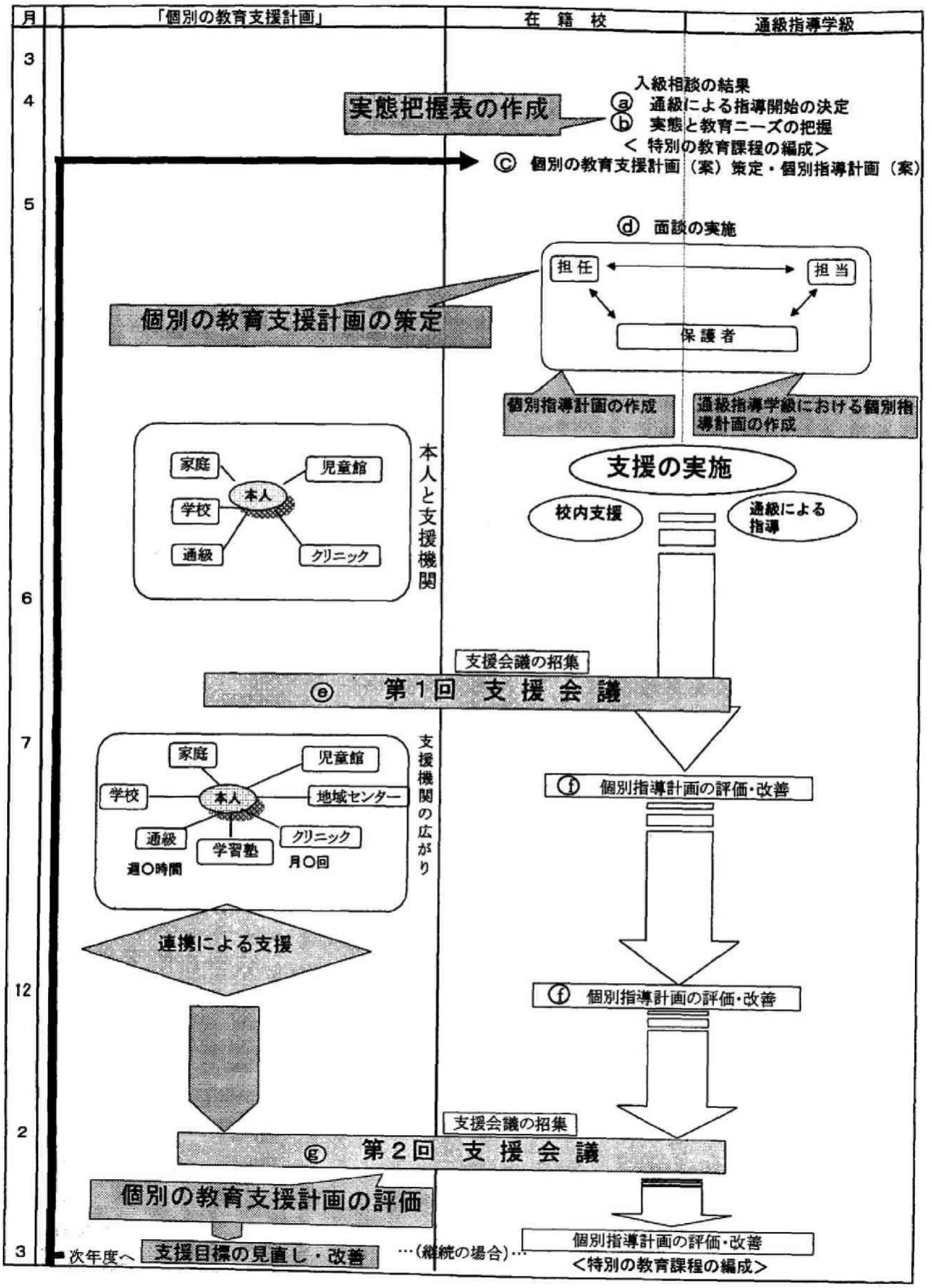
イ　支援会議

・校内と校外の支援体制が定まったら、特別支援教育コーディネーター及び心身障害学級担任が中心となり、保護者や本人も含めて支援諸機関と連絡を取り合い、定期的に支援会議を開く。支援会議に参加ができない支援機関については、心身障害学級担任が、計画案を個別に提示をして、持ち回りによる協議を行い、保護者の同意を得て、電話等の連絡も「会議」として位置付け、記録を残していく。

ウ　連携する支援機関

・連携する支援機関は、教育のみならず保健・医療、福祉、労働など様々な分野において考えられる。たとえば、教育では、小・中学校及び高等学校等、教育委員会、教育センター、区市町村立小・中学校心身障害学級等、保健・医療では保健所、主治医、その他の医療機関等、福祉では、児童相談所、同市町村福祉部、社会福祉協議会、心身障害者センター等、労働では、就労支援センター、ハローワーク、企業等、余暇活動では、ＮＰＯや各個人がかかわる塾や学童保育、児童館、地域の活動グループなどがあげられる。（図　支援機関例参照）

（２）　通級指導学級に通級する児童・生徒のための「個別の教育支援計画」策定のプロセス



① 策定のプロセス

ⓐ 通級による指導開始の決定

・入級相談の結果、通級指導の開始が決定し在籍校と通級指導学級の連携が始まる。

ⓑ 実態と教育ニーズの把握

・児童・生徒の実態と教育ニーズを把握し、実態把握表を作成する。実態把握表は、保護者の負担にならないよう通級開始までに作成し、在籍校は、通級による特別の教育課程を編成して区市町村教育委員会に届け出る。

ⓒ 個別の教育支援計画、個別指導計画の策定・作成

・通級指導学級担当者と在籍校の担任もしくは特別支援教育コーディネーターは、「個別の教育支援計画(案)」と「個別指導計画(案)」の策定・作成を行う。

ⓓ 面談の実施

・保護者との面談は在籍校の担任もしくは特別支援教育コーディネーターと通級指導学級担当者との三者で行うのが望ましい。面談では、「個別の教育支援計画(案)」と「個別指導計画(案)」を保護者に提示し内容を検討する。

・通級による指導ということから「個別の教育支援計画」の策定の見直しを毎年行い、学級担任が、次年度に加筆訂正し、充実を図る。

・児童・生徒は、居住する地域の中で育つために教育のみならず、保健・医療、福祉、労働などからの具体的な支援を調整し設定する。

ⓔ 第１回支援会議

・「個別の教育支援計画」が三者で策定された後、在籍校の担任もしくは特別支援教育コーディネーターは、関連する支援機関の関係者との連絡・調整を行い、第１回支援会議を開き「個別の教育支援計画」の内容を協議する。夏季休業中の地域支援の充実が重要であることから第１回の支援会議は７月までに開催にするのが望ましい。

ⓕ 個別指導計画の評価・改善

・一学期末の保護者面談は在籍校の担任もしくは特別支援教育コーディネーターと通級指導学級担当者の三者で行う。「個別の教育支援計画」に基づく支援状況の確認や修正を加え、関係機関との連絡調整を行う。

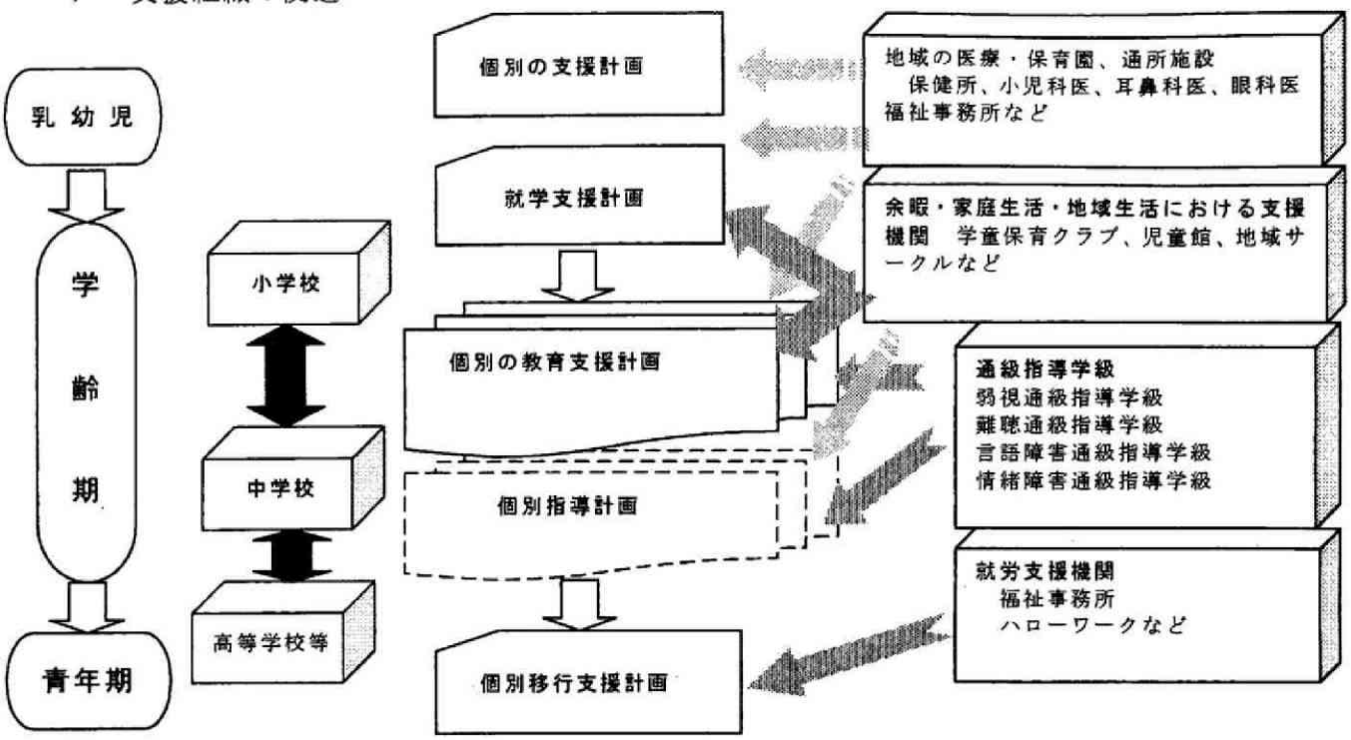
ⓖ 第２回支援会議

・年度末(２月中)には在籍校の担任もしくは特別支援教育コーディネーターは通級指導学級担当者と連携を図りながら第２回支援会議を開催し、支援の評価を行うとともに次年度の方向性を示す。

・新たな教育ニーズを加える場合には、支援目標の見直し・改善を行い、支援内容を具体化する。本人の状況が改善され通級指導の必要性がなくなった場合には退級となるが、「個別の教育支援計画」に基づく地域支援が必要な場合には支援を継続するとともに在籍校が中心となり次年度の「個別の教育支援計画」を策定し、以降、新たに支援会議を開催する。

② 支援組織の構築と「個別の教育支援計画」の活用

ア 支援組織の関連

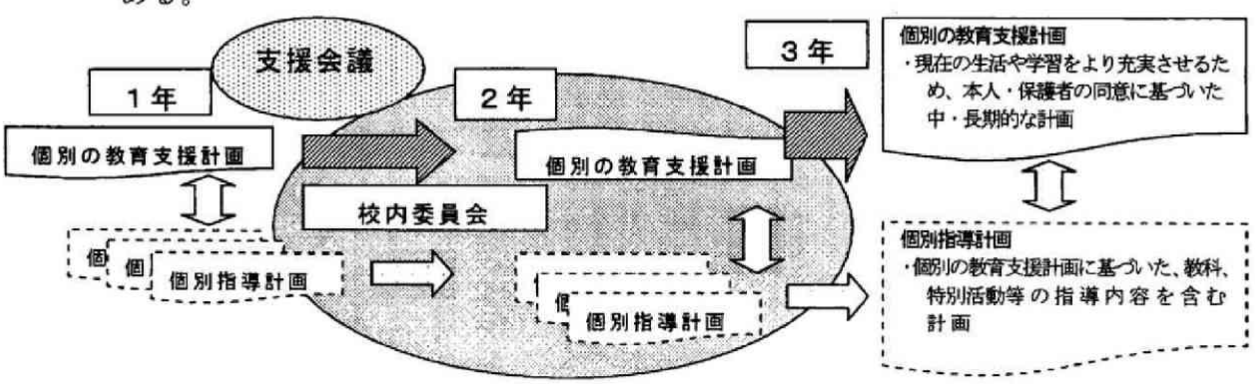


・在籍校と通級指導学級は、「個別の教育支援計画」をもとに、より効果的な指導が行えるよう、具体的な目安を立てた「個別指導計画」を作成する。「個別の教育支援計画」を進級するごと、小学校から中学校へ、さらに上の教育機関へと引き継ぎ、児童・生徒の就労支援に向けて「個別移行支援計画」に生かされていくことが大切である。

イ 在籍校における支援

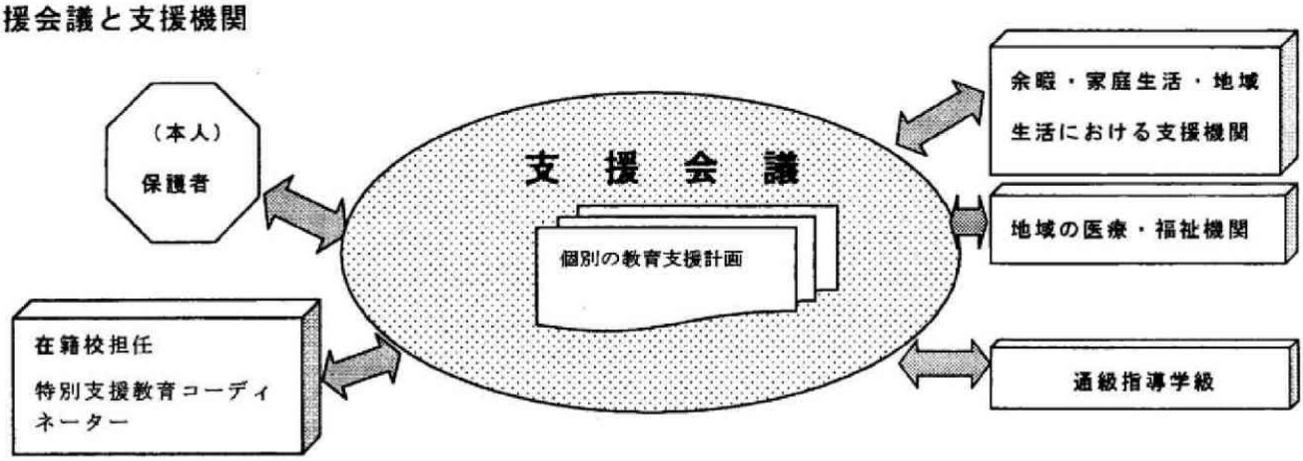
・校内体制の構築

在籍校においては、通級する児童・生徒のかかわるすべての教科・特別活動等において児童・生徒が教育ニーズに応じた支援を受けられるよう、校内での支援体制を整えることが必要である。そのためには、校内委員会を定期的に開催し、全教職員の共通理解のもとに、組織的に支援を行う。その際、児童・生徒の障害の種類や程度にもよるが、通級指導学級に通級する児童・生徒の障害を十分考慮し、「どんなことに困難さを感じるか」「どんな支援を必要としているか」を具体的に共通理解することが大切である。



校内委員会と個別の教育支援計画との関連

支援会議と支援機関



・支援会議の充実

通級している児童・生徒の在籍校の担任は、児童・生徒の思いや願いが十分生かされ、かつ、一人一人の教育ニーズに合わせて適切に対応し、必要な支援を受けられるようにすることが大切であり、そのための話し合いの場が支援会議である。在籍校の担任及び特別支援教育コーディネーターは、通級指導学級と連携し、保護者や各支援機関と連絡を取り合い、少なくとも年間２回程度の支援会議を行うことが必要である。保護者、通級指導学級担当者、必要に応じて保健・医療、福祉支援機関の担当者、地域の支援機関の担当者にも同席してもらうようにする。支援会議の場では、対象児童・生徒の支援がどのような関係の中で行われているかを共通理解し、「個別の教育支援計画」に基づく支援の内容について、お互いに情報交換し合う。児童・生徒や保護者の思いや願いを受けとめた支援会議を開くことによって、指導効果が高まっていく。

ウ　通級指導学級で行う支援

・通級指導学級では、児童・生徒の障害に基づく種々の困難の改善・克服を目指し、児童・生徒が自己の理解を深め、在籍校での学習活動に適応できるように支援する。支援内容については、在籍校に具体的に伝わるよう配慮する。また、在籍校における「個別の教育支援計画」や「個別指導計画」の策定・作成のための助言を行い、共通理解を図るようにする。通級している児童・生徒の障害特性についての情報伝達や、学級で予想される困難さ、支援が必要な内容について、児童・生徒が進級、進学しても適切に引き継いでいけるように在籍校との連携を密接に取り合うようにする。

エ　児童・生徒をとりまく地域社会での支援

・家庭における支援

児童・生徒の障害の軽減や、障害から起こる二次的な困難さの軽減は必要な支援ではあるが、家庭における心理的な面への支援も必要である。そのため、家庭での接し方についての助言やカウンセリングを必要に応じて受けられるように保護者への支援も必要となる。

・保健・医療、福祉機関との連携

通級している児童・生徒の多くは医療的な機関での支援を受けている。また、新たに

通級指導が必要となった児童・生徒にも何らかの医療的な支援や、発達の検査・相談等を受けるように勧める場合が多い。個人の情報なので、取り扱いに十分配慮を要するが、保護者の了解を得た上で、児童・生徒に行っている支援内容を知り、在籍校での情報も伝えることで連携を取り合うことが必要である。

・地域における支援

地域のスポーツなどの活動では、通級している児童・生徒の障害によっては、参加を懸念するような場合もある。児童・生徒の意欲や興味を引き出し、日常の生活では得にくい体験を受けられる場として、地域の活動への参加がスムーズにできることが望ましい。児童・生徒にとっては、地域の活動を通して、友人の輪を広げる機会を得られ、自己の興味を広げ、新たな能力を見出す機会となる。児童館、公民館のサークル、スポーツ団体など、地域の活動団体に児童・生徒の障害の理解を図り、児童・生徒が必要な支援を受けつつ、活動に十分参加できるようになるためには、支援会議の場で、児童・生徒の障害特性についての共通理解を図り、それに応じた支援内容と、支援方法を具体的に提示する。また、弱視の児童・生徒への教材作成や難聴の児童・生徒への要約筆記などの情報保障、児童の障害に応じた支援や通級指導学級や学童保育施設への送り迎えなどを支援するボランティア体制の充実も地域の支援には是非とも必要なことである。

支援機関例

	具体的な場合	連携支援する機関例
保健・医療	視覚に障害がある場合	眼科専門医・視覚補助具専門業者・義眼センター・主障害や健康状態に対応している医療機関・大学等の専門家・心身障害教育の領域に蓄積されている知識や情報のある専門家等
	聴覚に障害や言語に障害がある場合	耳鼻科専門医・口腔外科専門医・補聴器専門業者・言語聴覚士・主障害や健康状態に対応している医療機関
教育等	教育的な支援が必要な場合	公立教育相談所・児童相談センター・主障害に対応している大学や研究所の相談センター・拡大写本ボランティア・弱視通級指導学級・難聴通級指導学級・言語障害通級指導学級・情緒障害通級指導学級・心身障害学級（固定学級）・盲・ろう・養護学校等
家庭生活	保護者が病気・けが等により、家庭生活が困難になった場合	福祉事務所・保健所・自立生活支援センター・主障害や健康状態に対応している医療機関・民間居宅支援事業者・民間訪問看護事業者・保護者の負担軽減を図ることが可能な兄弟、祖父母・叔父叔母、兄弟が低年齢の場合は、こども家庭支援センター又はファミリーサポートセンター等
	保護者が精神的な理由により、家庭生活が困難になった場合	福祉事務所・保健所・自立生活支援センター・主障害や健康状態に対応している医療機関・保護者が通院している精神科医・こども家庭支援センター等
	住居の移転	今まで支援を行っていたや今後支援を受ける福祉事務所・保健所・自立生活支援センター・主障害や健康状態に対応していた医療機関
	養育放棄等虐待の可能性がある場合	児童相談所・福祉事務所・保健所・公立自立生活支援センター・兄弟の在籍する学校・こども家庭支援センター等
	その他	スポーツ団体・学習塾・音楽教室・書道教室
余暇等	買い物・旅行・サークル・スポーツ活動等	福祉事務所・自立生活支援センター・ボランティアセンター（手話通訳、要約筆記）・社会福祉協議会等有償ボランティア派遣センター・障害者の旅行を企画している民間団体・生涯学習課等の地域活動・日本チャリティー協会・東京都障害者スポーツセンター・福祉会館・住民センター・学童保育・図書館・児童館等
卒業後等	卒業後の社会資源の開発が必要な場合	障害福祉課・福祉事務所・保健所・自立生活支援センター・障害福祉センター・ボランティアセンター・ボランティア団体・大学研究室・専門学校・ＮＰＯ・自助グループ・親の会等
	就労支援等	ハローワーク・就労支援センター・自立生活支援センター・福祉事務所等

Ⅲ　具体的事例

1　固定学級の事例

（1）　小学校の事例１

①　児童Ａの実態

・小学校１年生（心身障害学級）に在籍している。

・就学前から区立心身障害センターで幼児指導を受けた。

（臨床心理士、言語聴覚士、医師）

・診断結果は、非定型自閉症、中度の知的障害であった。

・母親が働いているため、下校は、ヘルパーが送り迎えをしている。放課後は、隣の学校の学童クラブへ通っている。

・週に１回、療育機関（認知発達指導）やスイミングクラブへ通っている。

発達診断機関（病院）へは、半年に１度、通院している。

実態把握表

○○立○○小学校

作成日：平成○年○月○日　　記入者：○○○○

年○組氏名　　Ａ	担任名　　○○○○
入級・転入年月日　（平成○年4月入学）	前籍校（○○○センター　担任名：○○○
生活面 安全・健康・持ち物管理など	・信号は分かる。車に興味があり、周りを気にせずに向かっていくことがある。 ・簡単な服の着脱はできる。裏脱ぎになることがある。 ・顔が水に触れるのを嫌がる。 ・偏食があり、食べられるものが限られている。 ・面倒になると箸を使わず、手づかみで食べることもある。
社会性 対人関係・言語よる思の疎通・交流の実態など	・簡単なあいさつをすることができる。発語は、小声で要求を担任に伝えるが、単語のみである。 ・文字に興味があり、看板や、電光掲示板などに興味を示す。 ・初めての場所や活動に馴染むまでに時間がかかる。 ・自分の意のままにならないと自傷行為がみられる。他傷行為は減ってきた。
運動・動作	・大まかな模倣運動はできる。 ・バランスがよく、平均台を上手に渡ることができる。 ・直線ならば、はさみを使うことができる。 ・手遊びの動作模倣は難しい。
学習面	・ひらがなは全部読むことができる。 ・鉛筆の握りが不充分で、なぞり書きがまだできない。字形、書き順は分かっている。 ・数字は読め、数唱は、30まで数えられる。1対1対応では、10まで一致する。
その他	・興味のある物を求めて、教室から飛び出すことがある。 ・ブロック並べや、自分の顔を鏡に映して一人で遊んでいることが多い。

② 「個別の教育支援計画」

個別の教育支援計画(表)　固定学級在籍児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな	○○ ○○	性 別	生年月日	平成○年○○月○○日生		○ 歳
	本人氏名	A		保護者氏名	○○○○		
	住 所	〒○○○-××× ○○・・・・・・					
	電話番号			(愛の)手帳	3度	(平成○ 年○月交付)	
	教育ニーズ	・広汎性発達障害のため言語による意思疎通が未熟である。偏食がある。 ・学習、生活全般を通して小集団指導が必要である。					
在籍校	○○立 小学校 1 年 ○ 組(級)			学級担任	○○○○		
	住 所	〒○○○-××× ○○・・・・・・		電話番号	03-○○○○	ファクシミリ	03-○○○
前籍校等	○○立心身障害児ケアセンター通園。年長時○立保育園入園			学級担任	B保育士	電話番号	03-○○○

現在・将来についての希望	
本 人	
保護者	・クラスの友達と仲良く生活してほしい。偏食を軽減させたい。将来的に体力をつけてほしい。 (平成○年3月体験入級時の個人面談)

支援の目標

・理解言語を増やし、言語や動作で自分の欲求を伝えられるようにする。
・スモールステップによる指導を通して日常生活動作の向上を目指し、一人でできることを増やす。

必要と思われる支援

・登下校、衣服の着脱、排泄、食事などの指導について、保護者と連携を図り、放課後本児が通う学童クラブとも十分連絡を取り合う。
・母親の勤務時間により、登下校を支援するヘルパーと連携が必要である。
・理解力の向上を図り、対人関係や社会性を伸ばす指導を行う。

学 校 の 支 援

・学校生活の流れを知り、様々なルールに慣れる。身の回りのことを自分でできるようにする。
・交流では、自分から簡単なあいさつができるようになる。

支 援 機 関 の 支 援

家庭生活	支援機関:	○○ファミリーサポートセンター	担当者:コーディネーター○○	連絡先:
	支援内容:	登下校のヘルパーの確保		
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
余暇・地域生活	支援機関:	学童クラブ	担当者:A先生	連絡先:
	支援内容:	放課後の過ごし方、集団活動でのコミュニケーション指導	★学期に1回の連絡会議を実施している。	
	支援機関:	○○スイミングクラブ	担当者:B先生	連絡先:
	支援内容:	水泳を通して、泳力、及び体力、筋力の向上を目指す。	★年に1回連絡会議を実施する。	
医療・健康／教育相談	支援機関:	○○教育研究所(私立)	担当者:C心理担当者	連絡先:
	支援内容:	認知面の学習課題を行う。	★学期ごとの評価(通知表)をいただく。	
	支援機関:	○○区立心身障害センター	担当者:D医師	連絡先:
	支援内容:	脳波検査、医療、療育の相談。		
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			

支援会議の記録(予定も含む)

日時 4月	参加者) 就学相談専門委員・校長・特別支援教育コーディネーター・担任・○○学童クラブ指導員	協議内容・引継事項等・・・・保護者から出された教育支援計画の確認と担任が作成した個別指導計画の共通理解→→保護者から○○研究所と病院へ提出した。

作成日　平成 ○ 年○ 月 ○ 日 <新規・更新(回)>

区・市町村立＊＊＊＊学校長

作成担当　○○○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成　年　月　日　氏名　○○○○

③　「個別指導計画」　　○○立○○小学校

〈障害〉非定型自閉症 愛の手帳：　3　度 身障手帳：　　度	〈諸検査の情報〉 田中ビネー　IQ○○（就学前）	〈医学的情報（配慮事項）〉 脳波検査：(無)・有（　　） 服　　薬：(無)・有（　　） 健康管理：

全体像	・初めてのことに強い抵抗を示す。 ・嫌な時は、表情で訴える。発語は単語のみである。 ・偏食（野菜一般が食べられない）。手づかみで食べるときがある。	重点目標	☆学校の集団生活に慣れる 朝や帰りの支度や着替えを一人でできるようにする。

項　目		長期（年間）目標	指導の手だて	評価と今後の課題
日常生活の指導	〈基本的生活習慣〉 ・衣服の着脱 ・洗面、手洗い ・排せつ ・食事 ・清潔等 〈集団生活〉 ・あいさつ ・言葉遣い ・礼儀作法 ・時間を守ること ・きまりを守ること　等 〈学級の活動〉 ・朝、帰りの支度 ・係の仕事 ・朝の会、帰りの会 ・掃除　　等 〈給　食〉 ・準備・片付け	・登下校 大人と一緒に登下校し、交通ルールを学ぶ。 ・朝、帰りの支度 流れを覚えて一人で行う。 ・着替え 着替えの順序を覚える。 たたみかたを覚える。 ・洗面・手洗い 顔をぬらしてこする。 手のひら全体に石けんをつける。 ・排せつ ズボンを全部おろさない。 ・食事 偏食を少なくする。 ・掃除 教室の雑巾掛けをする。	・下校時のヘルパーとの歩き方の確認をする。 ・上級生を見本にする。 ・順序を知らせ、声かけする。 ・教員が、手を添えて一緒に洗顔する。 ・皿に小分けにして、少量でも食べられるようにする。 ・教員が手を添えて、雑巾の絞り方を教える。	☆様子を観察する。 ・次の予定を声かけすると掲示板を意識して見るようになった。 ☆ｽｲﾐﾝｸﾞの様子を聞く。 ☆食事の記録を母親と交換し合う。
国語	・聞く ・話す ・読む ・書く	友達や先生の名前を覚える。 物の名称を言う。 自分の名前を書く。	・写真カードの活用 ・絵本の読み聞かせ ・文字のなぞり書き	
算数	・数量の基礎及び数と計算 ・量と測定 ・図形、数量関係	1対1対応で、半具体物を10くらいまで数える。 数字を書く。	・型はめ、パズル等の教材の活用 ・ｶﾚﾝﾀﾞｰの記入	☆家庭生活にも意識して入れてもらう。 ・ｶﾚﾝﾀﾞｰにも興味を示した。
自立活動	・心理的な安定 ・環境の把握 ・健康の保持 ・身体の動き ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	・目と手の協応動作の向上 ・発音、発声の改善	・ｽｲﾐﾝｸﾞｸﾗﾌﾞとの連携 ・言語障害通級指導学級担当者によるアドバイス	・粗大運動を十分に行うようになった。 ☆口の周り、手の指のマッサージを続ける。
特別活動	・学級活動 ・児童会活動 ・クラブ活動 ・学校行事 ・儀式的行事等			

（２）　小学校の事例２

①　児童Ｂの実態

・小学校６年生（心身障害学級）に在籍している。

・就学時、知的障害心身障害学級の措置判定となったが、保護者の希望で通常の学級に入学した。入学当初は、校長、副校長、養護教諭が授業にかかわりながら対応したが、不適応行動がみられた。教育相談を継続し、小学校２年生から知的障害学級に転籍した。

・軽度の知的障害である。四肢の末端に軽いまひがある。低筋力、低緊張である。障害は、生後１歳で発見された。○○症候群と診断された。転居のため医療のケアを十分受けないまま就学した。

・中学校に向けて将来的に通える病院を探し、○○医療療育センターにて半年に１回継続観察をすることになった。

・年に３回の病院の言語聴覚士による専門的な指導を受け発音の改善を図るため、鼻咽腔の手術を行った。

実態把握表		○○立○○小学校 作成日：平成○年○○日　記入者：○○○○
○年○組氏名　B		担任名　○○○○
入級・転入年月日　（平成○年9月転入学）		前籍校（ ○○○学校　担任名：○○○）
生活面 安全・健康・持ち物管理など	・一人登下校をしている。習い事では、一人で交通機関を使って移動ができる。 ・身の回りのことをきちんと行うことが難しい。手指の問題もあるが服のたたみ方は雑である。身だしなみへの意識は低い。整理整頓が課題である。 ・食事中の姿勢はよくなってきたが、まだ口の周りを汚したり、片手で食事をしたりしていることがある。 ・上履きのかかとを踏んでいることが多い。	
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態 など	・誰とでも、楽しく会話をすることができる。発音は、不明瞭である。 ・丁寧な言葉で話すことはできるようになってきたが、ふざけだすと大人に対して乱暴な言葉遣いをすることがある。 ・低学年の子（小さい子）に優しく接することができる。 ・交流活動では、積極的に参加している。	
運動・動作	・正座は難しい。 ・筋力が弱く、全身の運動がぎこちなく不充分である。 ・犬かきで長い距離が泳げるが、大変時間がかかる。 ・目と手の協応動作に課題があり、形態認知や追視力が弱い。 ・絵は人物の顔のみになりがちである。	
学習面	・言語理解力は高い。 ・漢字仮名交じり文で詳しく説明できる。字形は整わず、筆圧が弱く罫線からはみ出る。 ・2桁の引き算ができる。九九は、習得中である。	
その他	・あきらめが早く、課題を早く終わらせようとしてしまう。	

② 「個別の教育支援計画」

個別の教育支援計画(表)　固定学級在籍児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな		性 別	生年月日	平成○年○○月○○日生	○ 歳	
	本人氏名	B		保護者氏名	○○○○		
	住 所	〒○○○-×××　○○……					
	電話番号			(愛の)手帳	4度	(平成○ 年○月交付)	
	教育ニーズ	・○○症候群による末端の軽いまひがある。 ・学習、生活全般を通し、小集団での指導が必要である。					
在籍校	○○立　小学校　6 年　○ 組(級)			学級担任	○○○○		
	住 所	〒○○○-×××　○○……		電話番号	03-○○○○	ファクシミリ	○○○○
前籍校等	小学校1年生まで XX小学校　通常の学級在籍			学級担任	B教諭	電話番号	○○○○

現在・将来についての希望	
本 人	・勉強ができるようになりたい。算数をがんばる。マラソンをがんばる。 ・将来はお店をやりたい。　(○年4月本人の作文より)
保護者	・地域の中で、多くの人とかかわりながら生活してほしい。 ・中学は、現在の友達関係を継続させてあげたい。 ・将来的に一人で医療機関とかかわり、自分の障害について理解させたい。 ・地域で就労をしたい。(平成○年7月個人面談)

支 援 の 目 標

・書字や生活動作の不自由さを改善する。
・学習の定着、学力の向上
・医療との連携:将来的に自ら医療とかかわれるようにする。

必 要 と 思 わ れ る 支 援

・末端のまひが原因と思われる生活動作の緩慢さに対する日常生活の指導を行う。
(整理整頓の仕方、身だしなみに対する意識など)
・学校での学習(手と目の協応動作の学習を含む)及び療育、地域での個別学習(塾など)との連携
・障害について治療及び知識を得る。

学 校 の 支 援

・日常生活の指導を通して、生活動作を改善する。
・人とのかかわりを通して、自己コントロール力を身に付けさせる。
・学習を通して、理解力向上を図る。
・交流では、言葉遣いに注意しながら積極的に参加させる。

支 援 機 関 の 支 援

家庭生活	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:
余暇・地域生活	支援機関:　Yの会 支援内容:　個別学習を通して、学力の向上、目と手の協応動作の改善を図る。	担当者:W	連絡先:
	支援機関:　○○○学習塾 支援内容:　書写の学習を通して、書字の技能を高める。　★ワークシートについて学校と連携している。	担当者:T	連絡先:
医療・健康/教育相談	支援機関:　心身障害児発達療育センター 支援内容:　医療的な発達診断、本人の障害理解を進める。　★2年に1回主治医面談を行い、医療的アドバイスを受ける。	担当者:C医師	連絡先:
	支援機関:　○○児童相談所 支援内容:　愛の手帳の更新、知能検査の実施	担当者:D福祉士　E心理士	連絡先:
	支援機関:　言語指導(校内にて年4回) 支援内容:　発達課題アドバイス、口腔内の課題、言語指導　小学校5年生;鼻咽腔の手術を受けた。　★年4回実施	担当者:F言語聴覚士	連絡先:
	支援機関: 支援内容:	担当者:	連絡先:

支援会議の記録(予定も含む)

日時　4月	参加者) 校長、特別支援教育コーディネーター、担任、交流学級担任支援先からは、資料の提出があった。	協議内容・引継事項等　①各支援先からの資料を基に今年度の支援体制についての確認を行った。

作成日　平成 ○ 年○ 月 ○ 日 <新規・(更)新(1 回)>
区・市町村立＊＊＊＊学校長
作成担当　○○○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。
平成　年　月　日　氏名　○○○○

支援の記録と評価（裏）

（５年生から６年生の記録）

実施時期	担　当	内　容	評　価
H○年４月	《校内支援会議》 校長、副校長、特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、全学級担任	・４年生までの指導の経過を確認し、担任が提案した「個別の教育支援計画」についての検討と確認をした。	・交流活動について、全職員に○○学級から提案する内容も検討した。
H○年５月	《家庭訪問》 学級全担任、両親	・家庭訪問にて学校から「個別の教育支援計画」を提示し、保護者と内容について相談した。	・高学年になり、情緒的に安定してきたので、○○学習塾で書字の学習をさせたいとの意向を受けた。
H○年８月	《支援機関へ》 Ｙの会の臨床心理士、母親、担任	・民間の療育機関であるＹの会にて、指導の様子を観察した。その後、母親、指導担当者と担任で現在の課題について話し合った。	・○○学級に入級して２年経過し、学習に対する意欲が高まっているとのこと。目と手の協応動作の改善に向け現在のＢ児の実態について話し合った。
H○年12月	《言語聴覚士との連携》 Ｆ言語聴覚士、母親、担任	・今年度３回目の言語指導を受けた。鼻咽腔の異状によるデメリットについて話した。Ｆ言語聴覚士は、手術を前提として受診を勧めた。	・母親もデメリットについて理解をし、冬休み中に手術をすることになった。
H○年３月	《校内支援会議》 校長、副校長、特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、全学級担任	・前年度の指導の評価について「個別指導計画」をもとに評価をした。	・医療面での必要なケアーを加え、次年度に生かす。
H○年４月	《校内支援会議》	・次年度の支援計画について確認、検討した。	・支援機関が増えたので、内容の確認した。
H○年６月	《医療との連携》 Ｃ医師、母親、担任	・Ｂ児の通院日に同行し、医師と支援計画について話し合った。	・○○症候群について、最新の診断について伺い、発達特性を理解する上での貴重な情報について共通理解をした。 ・視覚的な情報を整理し、指導に役立てるようにしたい。 ・全身の筋力向上に向けては、現在の指導を続けていく。
H○年９月	《支援機関との連携》 ○○学習塾Ｗ担当さん、担任	・学校公開日に担当のＷさんが授業見学した。現在の書字についての実態把握、中学に向けての課題について話し合った。	・ワークシートについては、現行のままで。漢字の学習が進んできているので、書き順、作文指導を丁寧に行う。
H○年11月	《保護者との連携》 就学相談担当者 母親、担任	・中学校の就学相談が始まった。相談に際して、母親が教育支援計画と個別指導計画を○○に提出した。	・現在の実態、保護者の希望、本人の希望を就学相談担当者に伝えた。次の相談日に判定会が行われる。

③　「個別指導計画」　　○○立○○小学校

〈障害〉○○症候群	〈諸検査の情報〉	〈医学的情報（配慮事項）〉
＊愛の手帳：　4　度 ＊身障手帳：　　度	＊田中ビネー　IQ○○（小２） ＊体幹機能検査　低緊張、肥満 ＊	＊脳波検査：（無）・有（異常なし） ＊服　　薬：（無）・有（　　） ＊健康管理：鼻腔音改善の手術（小５）

全体像	・○○症候群のため、手足末端にまひがある。正座が難しい。細かな作業が難しい。書字に課題ある。 ・言語理解力は高いが、描画は苦手である。 ・誰とでも親しく話ができる。言葉遣いが乱暴である。	重点目標	☆一つのことを最後までやり抜く態度を身に付ける。 ・物をよく見るよう意識する。 ・低学年の友達に優しく接する。 ・丁寧な言葉遣いをできるようにする。

項目		長期（年間）目標	指導の手だて	評価と今後の課題
日常生活の指導	〈基本的生活習慣〉 ・衣服の着脱 ・洗面、手洗い ・排せつ ・食事 ・清潔等 〈集団生活〉 ・あいさつ ・言葉遣い ・礼儀作法 ・時間を守ること ・きまりを守ること　等	○身辺処理 ・自分の身の回りのことをしっかり行う。（服のたたみ、ロッカーの整理身だしなみ、机の中の整理） ○食事 ・マナーよく食事をする。 ○言葉遣い ・語尾に気を付けて、丁寧語を使う。 ○人とのかかわり ・低学年とのペアでは、最後まで親しくかかわり、班長としての自覚をもつ。	・班長の自覚をもたせる。 ・物の上にお皿を置かないようにさせる。 ・乱暴な言葉にならないよう、～です、～ます、を使わせる。 ・２年生の○君の面倒を見るよう、励ます。	☆指導継続中。ベルトを使うこと、プリント整理ファイルを活用させる。 ・まだ左手が上手に使えていない。 ・～ですの話形で話すことは増えた。 ・ゆっくりと分かりやすい言葉かけをしていた。
国語	・聞く、話す ・読む ・書く	・良い姿勢で話を聞く。 ・抑揚をつけて読む。 ・経験した事実に感想を加えて話す。 ・字形を整える。	・姿勢保持を促す。 ・音読カードを使う。 ・絵日記型の作文を書く。 ・丁寧さを意識させる。	☆家庭で音読練習。 ・文字練習カードは△△会と連携を取る。
算数	・数量の基礎及び数と計算 ・量と測定 ・図形、数量関係 ・実務	・くり下がりのある引き算を理解する。 ・時間の計算をする。 ・１００円の両替を素早くする。	・半具体物で問題を作らせる。筆算をマスターさせる。 ・日常的に考えさせる。	・まだ、ケアレスミスがある。 ☆５０円や５円を使うことを指導中。
図画工作	・表現 ・材料、用具 ・鑑賞	・形をとらえてゆっくり描く。 ・丁寧に作品を作る。	・個別に担任が付き、よく見ることを意識させる。 ・一つ一つの活動を確認して進める。	・一つ一つ描かせると集中してできた。 ☆折り紙はいい加減に角を合わせた。
体育	・基本の運動 ・ゲーム ・体づくり運動 ・ボール運動 ・水泳等	・２０分間で走りきる。 ・ボールゲームに積極的に参加する。 ・５０メートルを泳ぐ。	・友達と競わせる。 ・三角ベースでは、１塁手にする。 ・平泳ぎの蹴りを指導する。	・○ちゃんと走ると負けるまいと集中が持続した。 ・ボールキャッチが上手になった。
生活単元学習	〈行事単元〉 ・運動会 ・文化祭 ・宿泊学習等 〈季節単元〉 ・七夕 ・正月等 〈課題単元〉 ・調理 ・校外学習等	○宿泊 ・班長として班員にきちんと声かけする。全体指示を聞いて荷物を素早くまとめる。 ・山登りでは、最後まで歩く。 ○運動会 ・６年生の集団で組体操に参加する。 ○～を作ろう単元 ・作業を通して手の使い方を学ぶ、よりよいものを目指す気持ちをもたせる。	・荷物の事前学習を行う。 ・遠足で山登りをする。 ・担任がそばで声かけする。 ・手の動き、全体を集める動きを指導する。	・山で全体の先頭になったことで張り切り、集中して登山できた。服のたたみ方がいい加減だった。 ・２人技は補助したが集団の動きには遅れなかった。 ・目標を意識し、最後までやり遂げるようになった。
自立活動	・心理的な安定 ・コミュニケーション	・～塾へ一人で電車を使って通う。 ・発声の改善	・券売機の使い方を知る。 ・呼気を高める。	☆家庭と連携を図る。 ☆言語聴覚士のアドバイスを受ける。
特別活動	・学級活動等	・手芸クラブ	・針、糸の種類を工夫する。	☆家庭の余暇活動へ発展させる。

（3）　中学校の事例１

①　生徒Ｃの実態

小学校は通常の学校に在籍 、小学校１年生の時より、週１回情緒障害通級指導学級に通級していた。中学校入学とともに知的障害学級に入級した。

実態把握表　　○○立○○中学校 作成日：平成○年○月○日　記入者：○○○○	
○年○組 氏名　C	担任名　○○○○
入学・転入年月日　（平成○年○月○日）	前籍校（○○○学校　担任名：○○○）
生活面 安全・健康・持ち物管理など	・身辺自立は、おおむねできている。 ・整理整頓が苦手で、机の中やカバンの中はいつも雑然としている。 ・配布物や提出物の管理が難しい。
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態など	・日常生活の中での意思の疎通は図れる。 ・自分の感情や思いを、順序立てて伝えることが苦手である。 ・集団生活の中で、時間を守れないことが頻繁にある。
学習面	・反復的な数学の計算や漢字の読み書きは得意で、ほぼ生活年齢相当の学力がある。 ・じっくり考えることが苦手で、文章の意味が理解できないことが多く、数学以外は学習全般の遅れがみられる。 ・筆圧が弱く、ゆっくりと丁寧な文字を書くことが苦手である。
その他	・独言が多い。 ・集中が続かないため、一斉指導の場面では、聞いていないことが多い。 ・こだわりからか、特定の友だちに対して、わざと悪口をいい、ケンカの原因を作ることがしばしばある。 ・今年度より、通常の学級で数学の指導を受けている。 ・将来は、親戚がいる海外で、生活をしたいという希望がある。 ・機械をいじることが好きで、車の整備士のような仕事がしたいと言う。 ・保護者は、健康的理由により、学習面での協力は難しい。

② 「個別の教育支援計画」

個別の教育支援計画（表）　固定学級在籍児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな		性 別	生年月日	平成○年○○月○○日生	○ 歳	
	本人氏名	C		保護者氏名	○○○○		
	住 所	〒○○○-×××　○○・・・・・・					
	電話番号			（愛の）手帳	○度	（平成○ 年○月交付）	
	教育ニーズ	・コミュニケーションに課題があるため、対人関係がうまくつくれない。 ・持ち物等を自己管理させるために小集団での指導が必要である。					
在籍校	○○立　中学校　年　○ 組(級)			学級担任	○○○○		
	住 所	〒○○○-×××　○○・・・・・・		電話番号	○○○○	ファクシミリ	○○○○
前籍校等	○○立　○○ 小学校			学級担任	○○○○	電話番号	○○○○

現在・将来についての希望	
本 人	・高等学校に進学し勉強を続けたい。将来、何の仕事に就きたいかは、まだ決まっていないが、自分に合ったところで働きたい。
保護者	・整理整頓ができず、人とのかかわりが下手なので心配は多いが、広い視野の中での成長を願っている。 ・高校卒業後は、知人の紹介でアメリカで単身での生活をさせてみたい。

支 援 の 目 標

・自分の身の周りの物に対する管理の仕方と対応のコミュニケーションを充実する。
・場に応じた、言葉や動作でコミュニケーションを図れるようにする。

必要と思われる支援

・整理整頓が苦手なため、順序立てて物事を片付けていくように指導するが必要がある。
・感情を表現することが、あまりないので、他人からは誤解をされやすく、人とのかかわり方について多くの事例を示すとともに具体的に学なべる機会を設定する必要がある。
・家庭教師が精神的な支えになっている。

学校の支援

「こういう時はこうする」という場面に応じた対応の仕方を具体的に教えていく。また、絵カードなど教材を工夫して、感情表現の言葉を絵とともに教えていき感情の表現力を積み上げさせていく。

支援機関の支援

家庭生活	支援機関：個人の家庭教師 支援内容：学習全般の指導とともに家庭生活の中で本人の精神的な支援をしていく。	担当者：Z	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：
余暇・地域生活	支援機関：スポーツサークル 支援内容：保護者がかかわるスポーツチームに一緒に同行し、異年齢の子どもたちと多く接し、人とのかかわりを広げさせたい。	担当者：W	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：
医療・健康／教育相談	支援機関：自閉症発達支援センター 支援内容：定期的に具体的なアドバイスを受ける。	担当者：Y	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：
	支援機関： 支援内容：	担当者：	連絡先：

支援会議の記録（予定も含む）

日時 4月25日	参加者）担任・本人・保護者・スポーツサークル監督・家庭教師の Z	協議内容・引継事項等 個別の教育支援計画と個別指導計画を共通理解した。

作成日　平成 ○ 年○ 月○　日 ＜新規・更新（　回）＞

区・市立＊＊＊＊学校長
作成担当　○○○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成　年　月　日　氏名

③　個別指導計画　　○○立○○中学校

〈障害〉	〈諸検査の情報〉	〈医学的情報（配慮事項）〉
＊愛の手帳：　　度 ＊身障手帳：　　度	＊ＷＩＳＣ－Ⅲ○○（入学時） ＊ ＊	＊脳波検査：(無)・有（　　） ＊服　　薬：(無)・有（　　） ＊健康管理：

全体像	重点目標
好きなことや興味のあることには自分なりの目的や課題を見付け、取り組めるが集中が続かず学力の定着につながりにくい。人とかかわることが苦手で一人でいることを好み集団での生活に楽しみが見出せないでいる。	・基礎的な生活習慣を身に付け、将来の自立に向けての自信につなげる。 ・学力を向上させ、高等学校進学を目指す。 ・生活の中で友人とのコミュニケーションの仕方を学び人とのかかわりの楽しさを見付ける。

項目		長期（年間）目標	指導の手だて	評価と今後の課題
日常生活の指導	〈基本的生活習慣〉 ・衣服の着脱 ・洗面、手洗い ・排せつ ・食事 ・清潔等 〈集団生活〉 ・あいさつ ・言葉遣い ・礼儀作法 ・時間を守ること ・きまりを守ること等	・身なりを整え身辺を清潔に保つことの必要性とスキルを習得させる。 ・規則的な生活をさせ、時間を守ることの大切さを理解させる。 ・順序立てて自分の考えを友達に伝えられるようにする。	・身なりについて朝会前に本人とともに確認をする。 ・どこをどのようにすればいいのか、視覚的な情報を用いて理解をさせ、生活につなげる。 ・毎週末、担任とともに机・ロッカーの整理をして自分の身辺を確認する習慣を身に付けさせる。 ・周囲の人間関係に目を配り安定した中で意思伝達ができるような環境を作る。	・昼食後に進んで歯磨きをするなど身だしなみを気遣うようになってきた。 ☆こだわりのため折り合いがつかないと始業に遅れることがあるが、班活動では遅れることが少ない。 ・他を気遣う会話が増えてきた。
国語	・聞く ・話す ・読む ・書く	・中１程度の漢字の読み書きはできているので、生活年齢の学習に近付ける。 ・他の生徒の発表などを聞き心情が読み取れるようにする。 ・感情を表現できる語いを増やす。	・一人で取り組める書き取りの宿題を出し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。 ・曖昧な表現は避け、詳細かつ分かりやすい表記を行う。	・ノートの提出忘れがあるが、毎日の課題はできるようになった。
数学	・数量の基礎及び数と計算	・中２程度の学力はあるので、物事について考えたことを式として表し、計算力を生す。	・通常の学級での学習を通して、数学の力を伸ばす。	・応用問題を解けるようになってきた。
自立活動	・コミュニケーション等	・周囲から求められていることを理解し、誰にでも理解できる方法でやりとりできるようになる。	・視覚的な手段を用いて他者の意図を理解させる。 ・場に応じて身振りやサイン指さしなど間接的な手段を用いる。	・友達にかかわろうとする場面が増えてきた。
特別活動	・部活動	・所属する部活動のスケジュールを自ら確認・管理し、部のルールにしたがった行動をして活動させる。	・部顧問との連絡を密にして行動を把握し、担任も活動の様子を観察する。	☆部活動は熱心に取り組むが、突然、大声を出すことがある。

（4）　中学校の事例２

①　生徒Ｄの実態

知的障害が軽度で、自閉的傾向のある生徒の事例である。基本的身辺自立はできているが、対人面、言葉のコミュニケーションに課題があった。

小学校１年生時、医療機関で自閉的傾向を伴う発達障害との診断があり、小学校３年生から知的障害学級に入級した。

実態把握表　　○○市○○中学校 作成日：平成○年○月○日　記入者：○○○○	
○年○組　　氏名　　D	担任名　　○○○○
入学・転入学月日（平成○年○月入学）	前籍校（○○○学校　　担任名：○○○）
生活面 安全・健康・持ち物管理など	・全体へ向けての話の時、声かけが無いと話している人へ視線が向かず姿勢が崩れてしまっていることが多い。 ・身辺自立はほぼできているが、周囲の状況とは無関係にマイペースになりがちである。着替えの際、必要以上に丁寧にたたんで時間に間に合わなかったり、昼食時に声かけがないと状況に応じて急いで食べることが難しかったりする。 ・休み時間に、友達に自分からかかわっていくことはほとんどみられず、一人で本を読んでいることが多い。
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態等	・友達と協力して仕事をするという意識は少ないが、指示されたことには素直に従い、本人なりに一生懸命に取り組むことができる。 ・分からないこと、聞きたいこと、話したいことなど伝えたい内容を本人なりに整理して話そうと努力しているが、発音に分かりにくい部分もあり、相手が内容を汲み取って理解する必要がある。 ・あいさつ、お礼、報告等、基本的には定着しているが、はっきり言えるようにしたい。
学習面	【国語】物語は、全体の内容を理解することができた。登場人物の気持ちを絵から表現することができた。小学校 1，2 年生程度の漢字を学習した。 【数学】時計は以前よりスムーズに読めるようになった。「あと何分で何時」の質問にはまだ答えられない。繰り上がり、繰り下がりの学習をした。正解する場合もあるが、まだ不安定である。電卓を使って計算ができる。 【音楽】歌は、声かけをすれば友達と一緒に大きな声で歌える。 【美術】絵は奥行きのある作品を描くことができ、素早く仕上げられたが、やや雑になりがちである。鋸引き、釘打ちをある程度正確に行えた。カッター、彫刻刀等の教具も安全に使用できる。 【技術・家庭】指示を聞いてカレーを一人で作り、手際良く作業できた。クロスステッチ刺繍も製作した。リリアン編みのマフラーの作り方を理解し、完成できた。 【保健体育】ボールを力強く投げられた。受けるのも比較的上手である。タイヤの開脚跳びができる。
その他	・母親に評価されたいと思う気持ちが非常に強い。 ・友達が注意されているのを見て、笑顔で教員に「怒る?」と言ってきたり、下校時に母親に報告したりする。 ・身体を動かすことよりも、本を読むなど一人で部屋の中で過ごすのを好む。 ・ぜんそくがあり、ひどいときには運動を避ける必要がある。 ・アトピー性皮膚炎、花粉症の症状がある。

② 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画(表)　固定学級在籍児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな	○○ ○○ ○○○	性 別	生年月日	○○年 ○月 ○○日生	○ 歳	
	本人氏名	D	○	保護者氏名	○ ○ ○ ○		
	住 所	〒 ○○○−○○○○ ○○○○−○○○−○					
	電話番号	○○○○−○○○−○○○○		(○○)手帳	○ 級・度	(平成○○年○月交付)	
	教育ニーズ	・全体へ向けての話で言葉の意味を理解するのがなかなか難しく、自分のこととして聞くことができないなどの課題があるため、コミュニケーションの伸長を図る。					
在籍校	○○立 ○○○中学校 ○年 ○組(級)			学級担任	○ ○ ○ ○		
	住 所	〒 ○○○−○○○○ ○○○○○○−○○○−○		電話番号	○○○○−○○○−○○○○		
前籍校等	○○立 ○○○小学校 ○年 ○組(級)			学級担任	○○ ○○	電話番号	○○○−○○○○

現在・将来についての希望	
本 人	・時間に遅れないようにする。 ・花粉症やアトピー性皮膚炎を治したい。
保護者	・あいさつやお礼などその場に応じて使えるようになって欲しい。 ・身だしなみ、きれいなこと、汚いことなどを意識させたい。 ・人の話をしっかりと聞いて、その場に応じた行動が、素早く的確にできるようになって欲しい。

支 援 の 目 標

・日常生活における意思伝達の機能を高める。
・将来の社会生活へ向け、その場に応じた挨拶をすることや身だしなみに気を遣うことができるようにする。

必 要 と 思 わ れ る 支 援

・話し言葉のほか書き言葉やサイン、絵カードなどを使用し意思伝達の機能を高める。
・医師との連携を行い、服薬等の自己管理を進める。
・家庭やスイミングクラブ等と連携を密接に行い、その場に応じたあいさつができるようになることや、身だしなみに注意することを指導する。

学校の支援

・小集団での学習の中で、具体物や絵カード等を使用するなど、配慮事項を各教科で共通理解し、指導を行う。
・基本的生活習慣の指導について同一の指導ができるように関係諸機関と連携を図る。

関係機関の具体的支援

家庭生活	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
余暇・地域生活	支援機関:	○○スイミング	担当者:○○○○コーチ	連絡先:○○−○○○○
	支援内容:		水泳指導、体力づくり、大会出場など	
	支援機関:	○○○○クラブ	担当者:○○○○クラブ代表○○○○	連絡先:○○−○○○○
	支援内容:		放課後の余暇活動、外遊び指導など	
医療・健康／教育相談	支援機関:	○○○○療育園	担当者:主治医 ○○○○	連絡先:○○−○○○○
	支援内容:		脳波検査、てんかん薬処方など(年2回)	
	支援機関:	○○市教育相談所	担当者:就学相談員○○○○さん	連絡先:○○−○○○○
	支援内容:	学校や家庭での過ごし方などを必要に応じて連絡し、話し合いを設定する。		
	支援機関:	○○病院	担当者:○○医師	連絡先:○○−○○○○
	支援内容:	アトピー性皮膚炎、花粉症の治療		
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			

支援会議の記録(予定も含む)

日時 ○月○○日	参加者) 担任、保護者、特別支援教育コーディネーター、就学相談員、○○クラブ代表	協議内容・引継事項等 諸検査の結果や実態把握等を通して支援課題・支援内容についての話し合いを関係者でもち、個別の教育支援計画と個別指導計画の確認を行った。

作成日　平成○○年○ 月○○日 <(新規)・更新(回)>

区・市町村立＊＊＊＊学校長　○ ○ ○ ○

作成担当　○ ○ ○ ○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことに同意しました。

平成○○ 年 ○月 ○○日 氏名 ○ ○ ○ ○

③　個別指導計画　　○○立○○中学校

〈障害〉知的障害、自閉的傾向 てんかん ＊愛の手帳　　４　度	〈諸検査の情報〉 ＊てんかん発作を起こす可能性ある。	〈医学的情報（配慮事項）〉 ＊脳波検査：無・(有)（発作波あり） ＊服　　薬：無・(有) （抗アレルギー剤：ペミラストン　朝夕１錠ずつ　）

全体像	・穏やかな性格で基本的生活習慣の自立もできている。 ・自分の殻に閉じこもっていることが多い。 ・人とのコミュニケーションに困難があり、友達と会話の成立が難しい。	重点目標	・全体に向けての話や指示を内容まで聞き取れるようにする。 ・その場に合った挨拶をすることや身だしなみに気を配れる。 ・興味の幅を広げ、友達とも日常会話などコミュニケーションができるようにする。

項　目		長期（年間）目標	指導の手だて	評価と今後の課題
日常生活の指導	〈基本的生活習慣〉 ・衣服の着脱 ・食事 ・清潔等 〈集団生活〉 ・あいさつ ・言葉遣い等 〈学級の活動〉 ・朝、帰りの支度 ・係の仕事 ・朝の会、帰りの会 ・掃除　　等 〈給　食〉 ・準備・片付け	・自分で身だしなみを意識できるようにする。 ・時間を意識して食べられるようにする。 ・はっきりした発音であいさつ、お礼などが言えるようになる。 ・報告等話す内容を整理して、きちんと伝えられるようにする。 ・声かけがなくても迅速に行動できるようにする。 ・自分から仕事を見付け、働けるようになる。	・身だしなみで気になる点があった場合に、その都度、声かけ指導する。 ・食べ物の種類によっては食べにくい、あるいは好まないなどで、食べ終わるのに時間がかかりすぎる場面があった。様子を見ながら声かけ指導する。 ・挨拶、お礼はほぼ定着しているが、発音がはっきりしない時には直ぐその場で言い直しをさせる。 ・話していることが整理できずはっきりしない場合は、ヒントを与えながら適切に言えるように指導する。 ・友達と一緒に何かに取り組むときに、自分から仕事を発見して行動するのは大変難しいので、係活動等はその場その場で本人に具体的に指示を出し、取り組ませる。	・身だしなみを本人だけで気付いていくのは現点で困難であるが、声かけされた時は慌てて直すようになってきている。 ・他より遅れ気味の時は声を掛け急がせたが、以前のような３０分以上かかる極端な遅れはなくなった。 ☆その場に応じて自分からできているが、もう少し大きな声ではっきりと言わせるようにしたい。 ・本人なりに伝えようという意識が明確になってきたようである。内容もかなり整理して話せるようになった。 ☆指示内容には素直に従いきちんと仕事ができた。まだ友達と協力する意識は育っていない。
国語	・聞く、話す ・読む ・書く	・全体への話、指示などを集中して良く聞く。 ・大きな声ではっきりと文を読む。 ・自分の書きたいことを作文できるようにする。 ・文字を雑にならないように注意して丁寧に書けるようにする。	・具体物や絵カード等を使用する。 ・日記や作文はなかなか内容が広がらなかったが、日記へのコメントや助言などで例えばこういった内容ではどうかなど具体的に示す。 ・文字を急いで雑に書いてしまう傾向があるので、表記の時にチェックして雑になった場合はすぐに書き直しをさせる。 ・簡単な漢字だけの学習ではなく、日常よく使用する漢字、教科や行事に関連する漢字も同時に学習し、作文などで使用させ覚えられるようにする。 最初点線をなぞることから始める。	☆視線も徐々に話し手の方へと向く場面が増え他から比べまだまだ聞けない時は多い。 ・日記の内容を例えば行事のこととテーマを与えてあげると意識して書くことができた。 ・助言は必要だが、絵を見ながら文をきちんと作ることができた。作文も大部書きたい内容を意識して書けるようになっている。 ☆文字の表記は大人の目がある場合はしっかりとできるが、家での日記になると雑になってしまいがちである。
数学	・数量の基礎及び数と計算 ・量と測定 ・図形、数量関係 ・実務	・繰り上がり、繰り下がりの仕組みを理解する。 ・金銭の種類、大小を正確に理解する。	・繰り上がり、繰り下がりの仕組みをタイルを用いて学習する。 また、それを基に３桁以上の計算に挑戦させる。	・時々、まだ誤答があるが１０の塊を意識して 繰り上がり、繰り下がりとも計算しており、ほぼマスターできたようである。
特別活動	・学級活動等	・苦手なこと、いやなことでも頑張って取り組める。	・清掃時に、ゴミの分別について、教員がかかわりながら指導する。	・燃えるゴミと燃えないゴミの分別を嫌がらないようになった。

2　通級指導学級の事例

（1）　弱視通級指導学級

①　児童Ｅの実態

先天性の眼疾患があり、視力が低く視野も狭い。保護者の就労のため幼児期は地元の保育園に通園していた。周りの状況を見てとらえにくいために動作が慎重で、自分から積極的に活動することが少ない。慣れている友だちとは仲良く遊ぶ。小学校入学後、保護者からの希望で、○年○月より弱視通級指導学級での通級による指導が始まった。平日の放課後は学童保育室に入っている。月２回、姉と一緒に近所の絵画教室にも通っている。教科書や黒板の文字が見えにくいため、弱視通級指導学級と在籍学級と連携をとりながら弱視レンズの練習を始めた。拡大教科書の使用についても検討中である。

実態把握表	○○立○○小学校 作成日：平成○年○月○日　記入者：○○○○
○　年　○　組　　氏名　E	担任名　○○○○
弱視通級指導学級（○年○月より入級）	○○立○学校　担当者　○○○○
生活面 安全・健康・持ち物管理など	・見えにくそうなときに教員が尋ねると「見えません」答えることがある。自分からは発言せず、じっとしていることが多い。 ・授業や給食の準備、片付け、着替えなどに時間がかかる。 ・普段は、声は小さいが、日直のあいさつは、大きな声で言うことができる。
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態など	・休み時間は、同じ保育園から入学した友達と一緒にいることが多い。 ・クラスの友達全員の名前と顔が一致していない。
運動・動作	・階段の手前ですり足になり、手すりにつかまって階段を下りる。 ・休み時間は教室内で遊ぶことが多い。 ・ハサミを使うとき切取線をよく見ないで切ることがある。ハサミを使うことに苦手意識をもっている。
学習面	・教科書の小さな文字は見えにくく、1字1字ゆっくりと拾い読みをしている。 ・文字は、ゆっくりだがきれいに書く。 ・一番前の席から黒板に大きく書いた文字は何とか読めている。

② 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画(表)

通級指導対象児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな	○ ○ ○ ○	性 別	生年月日	○年○月○日生		○歳
	本人氏名	E	○	保護者氏名	○ ○ ○ ○		
	住 所	〒○○○-○○○○ ○○○○○○ ○-○-○					
	電話番号	○○○-○○○○		(身障)手帳	○ 級・度	(平成○年○月交付)	
	教育ニーズ	低視力と視野狭窄による見えにくさがあるために視覚補助具の使い方を習得する必要がある。					
在籍校	○○立 ○○小学校 ○年 ○組(級)			学級担任	○○ ○○		
	住 所	〒○○○-○○○○ ○○○○○ ○-○		電話番号	○○○-○○○○	ファクシミリ	○○○-○○○○
前籍校等				学級担任		電話番号	

現在・将来についての希望	
本 人	・友達をたくさん作りたい。 ・単眼鏡やルーペを上手に使えるようになりたい。
保護者	・弱視であるが、自分の力でいろいろなことに挑戦してほしい。

支 援 の 目 標

・視覚補助具の使い方を習得し、日常の学習で活用できるようにする。
・安全で状況をとらえやすい生活環境、見やすい学習環境を整えて、意欲的に活動できるようにする。

必 要 と 思 わ れ る 支 援

・弱視通級指導学級での個別及び集団指導。
・見やすさや安全面に配慮した環境整備。

在 籍 校 の 支 援

・安心してのびのび活動できるように校内の安全面の環境を整える。
・座席の位置や板書、掲示物、プリント等の文字の大きさなどに配慮する。
・準備や片付けなど自分でよく見て確認して行うために必要な時間を確保する。

支 援 機 関 の 支 援

通級指導学級	○○立○○小弱視通級指導学級	通級開始 ○年 ○月	担当者:○○○○	連絡先:○○○○-○○○○
	支援内容:	・目と手の協応性や手指の巧緻性を高める指導。 ・単眼鏡、ルーペの操作技術を高める指導。 ・自分の障害の特性に気付き、見やすく便利になるように自分から工夫しようとする意欲と態度を育てる指導。 ・見えにくさのためにつまずきがちな教科の学習の補充指導。		
家庭生活	支援機関:	○○学童保育室	担当者:○○○○	連絡先:○○○○-○○○○
	支援内容:	・保護者が帰宅するまでの放課後の時間に、安全で安心して活動できる場を用意する。・友だちとかかわり合って遊べるように支援する。		
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
余暇・地域生活	支援機関:	○○絵画教室	担当者:○○○○	連絡先:○○○○-○○○○
	支援内容:	・生き生きとした自由な表現力を伸ばすように支援する。・友達の作品を近くで見て鑑賞できるように配慮する。		
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
医療・健康／教育相談等	支援機関:	○○大学病院眼科	担当者:○○○○	連絡先:○○○○-○○○○
	支援内容:	・定期的な視覚の管理。		
	支援機関:	○○拡大写本ボランティア	担当者:○○○○	連絡先:○○○○-○○○○
	支援内容:	・授業で使用する教科書の拡大写本を作成する。		

支援内容の評価と課題

・年度当初、学校や学童保育室で安全面の環境整備を行い、事故やけががなく本人も安心して生活できた。
・通級指導学級との連携により、学校の授業で単眼鏡を使い始めた。

支援会議の記録(予定も含む)

日時	参加者) 保護者(○○○○)在籍校 (○○○○)弱視通級指導学級 (○○○○)学童保育室(○○○○)	協議内容・引継事項等: 環境面の安全点検と、周りの友達に見えにくさによる困難を理解してもらうための働きかけが大切であることを話し合った。

作成日 平成 ○年 ○月 ○日 <(新)規・更新(回)>

○○区・市町村立＊＊＊＊学校長 ○○ ○○
作成担当 ○○ ○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことに同意しました。

平成 ○年 ○月 ○日 氏名 ○○ ○○

③　個別指導計画

○○立○○小学校

個別指導計画(○学期用)

ふりがな 氏　名	E	性別	在籍学級	○年　○組
		○	担任氏名	○○ ○○

本人・保護者の願い	
本　人	・友達をたくさん作りたい。 ・単眼鏡やルーペを上手に使えるようになりたい。
保護者	・弱視であるが、自分の力でいろいろなことに挑戦してほしい。

児童・生徒の実態と目標		支援のヒント	指導の手だてと評価
学習	・正しく文字や文を読み書きする。	・板書の文字は大きくはっきり、声に出して読みながら書く。 ・正しく見えているかどうか尋ねたり本人の行動から確認したりする。 ・弱視通級指導学級と連携をとりながら、単眼鏡やルーペを授業の中で使うように言葉をかけて促していく。	☆日常の授業の中で分かりやすく指導する。 ・言葉かけをこまめにしなくてもルーペを使うようになってきた。
運動・動作	・手指を使った活動をあきらめずに最後までやり通す。	・保護者と連携をとり、本人が使いやすい道具や日用品を用意してもらう。	・連絡表等を活用することで、日用品の忘れ物が少なくなった。
生活	・学習の準備や片付けを手際よく行う。	・道具箱や机、ロッカーなどを整理しやすいように、時々本人と一緒に点検する。 ・ある程度の時間がかかっても一人で行えるように、待ち、励ます。	☆朝の会、帰りの会の前後の時間で、こまめに指導する。 ・机の中が整理されるようになった。
対人関係	・いろいろな友達との活動を楽しむ。	・グループ活動や係活動のメンバー構成を工夫する。特に、体育の運動遊びの時間を活用する。	☆気の合う友達とグループを形成する。 ・少しずつではあるが自分から仲間に入ろうとするようになった。
学級経営	・他の児童への理解を図る。	・必要に応じて弱視通級指導学級担任と連携をとり、弱視の障害理解教育の話をする機会を設ける。 ・日ごろから「お願いします」「ありがとう」「ごめんなさい」を気持ちよく言い合える学級づくりをする。	☆在籍する学級で障害についての話をする ・周りの児童がEにかかわる機会が多くなってきた。

学期の目標
・自分から単眼鏡やルーペを授業の中で使えるようになる。 ・危険な場所を避けるなど周囲の状況に気遣い、安全な学校生活を送る。

（2）　難聴通級指導学級の事例

①　児童Ｆの実態

両耳に中～高度の聴力損失があり、日常的な言葉の力が不足していることから、週２回の通級指導を行っている児童である。入級当初は、環境の変化に親子共々不安定な状態が見られたが、現在は、言葉の力も付いてきた。また、大好きなサッカー少年団に入団し、補聴器をつけて試合に参加している。 地域のスポーツ少年団などに補聴器を装用した児童が入団したことは、これまでになかったため、理解を得ることや、補聴器やきこえの特性について理解を図っていくことなど、地域との連携が今後の課題である。

実態把握表	○○立○○小学校 作成日：平成○年○月○日　記入者：○○○○
○　年　○　組　　氏名　F	担任名　○○○○
難聴通級指導学級（○年○月より入級）	○○立○○学校　担当者　○○○○
生活面 安全・健康・持ち物管理等	・基本的なあいさつを恥ずかしがってできないこともある。 ・宿題や持ち物は忘れたことがほとんどない。 ・衣服の着替えはできるが、洋服をきちんとたたむことは難しい。
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態など	・友達との関係は友好的で、休み時間には遊びの輪に入って仲良く遊んでいる。 ・分からないと何度も聞くために、友達から多少嫌がられるときもある。
学習面	【国語】漢字の習得はできている。読解問題では選択肢がないと答えられない。読解問題につまずきがみられる。 【算数】計算問題はできるが、文章題では手助けが必要である。図形の作図は、苦手である。 【理科】意欲的に取り組んでいる。特に生き物への興味・関心が高い。 【社会】地域の店調べでは、調べたことを新聞にすることが分からない。 【音楽】リズムをとることが難しく、ワンテンポ遅れてしまう。 【その他】学習全般への意欲は高い。積極的に授業に参加している漢字の習得はできている。読解問題では選択肢がないと答えるのは難しい。 【図画工作】絵の描写では細かい部分にもよく気が付いた。工作は苦手である。 【体育】運動能力は高く、ボール運動が特に優れている。

② 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画(表)

通級指導対象児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな	○○○ ○○○	性 別	生年月日	○年 ○月 ○日生		
	本人氏名	F	○	保護者氏名	○ ○ ○ ○		
	住 所	〒○○○○○○○ ○○○○−○○−○○					
	電話番号	○○○−○○○○		(身障)手帳	○級・度	(平成 ○年 ○月交付)	
	教育ニーズ	難聴に伴うことばの遅れがあるため、難聴通級指導学級での通級指導が必要である。					
在籍校	○○区立 ○○小学校 ○年 ○組(級)			学級担任	○○ ○○		
	住 所	〒○○○○○○○ ○○○○○−○○−○○		電話番号	○○○−○○○○	ファクシミリ	○○○−○○○○
前籍校等				学級担任		電話番号	

現在・将来についての希望	
本 人	・勉強も頑張りたいし、サッカーも頑張りたい。将来はサッカーの強い中学校へ進みたい。
保護者	・難聴というハンデに負けずに、何事にも意欲的に取り組んでほしい。 ・サッカーをやりたいという気持ちを大事に育てていきたい。

支援の目標

・学年相応の学習に必要な言語能力を身に付ける。
・自己の目標に向かって生き生きと物事に取り組めるようにする。

必要と思われる支援

・難聴通級指導学級での個別及びグループによる指導を行う。
・「サッカーも勉強も頑張りたい」という児童の願いを実現できるための環境整備を行う。
・定期的に通院し、診察を受ける。

在籍校の支援

・毎年確認のため、全教職員に児童の聞きにくさ、必要な声かけや提示の仕方について共通理解を図る。
・必要に応じて、個別の提示や教示をすることにより学習の環境を整える。

支援機関の支援

通級指導学級	○○区立○○小通級指導学級	通級開始 ○年 ○月	担当者:○○ ○○	連絡先:○○○−○○○○
	支援内容:	・児童の全体的な発達の評価をし、話す、聞く、読む、書く力を身に付ける。 ・個別学習では語いの拡充を図り、構文力を高める指導を行う。 ・グループ学習を定期的に行い、話す、聞く、発表する力を高める指導を行う。 ・聴力の管理		
家庭生活	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			
余暇・地域生活	支援機関:	○○サッカー少年団	担当者:○○ ○○	連絡先:○○○−○○○○
	支援内容:	・ルールをしっかり覚えさせる。周りの児童には、互いに声を出しながらプレーを行うように働きかける。		
	支援機関:		担当者:○○ ○○	連絡先:○○○−○○○○
	支援内容:	補聴器をつけていても、活動に支障がないように、頻繁に声かけ等を行い援助する。聞こえにくさへの配慮をする。視覚的な提示をする。		
医療・健康／教育相談等	支援機関:	○○病院耳鼻咽喉科	担当者:○○○○医師	連絡先:○○○−○○○○
	支援内容:	定期的な検診		
	支援機関:		担当者:	連絡先:
	支援内容:			

支援内容の評価と課題

支援会議の記録(予定も含む)

日時○年○月○日	参加者)在籍校○○、通級指導学級○○教諭、保護者	協議内容・引継事項等)夏の水泳学習を控え、補聴器をはずしても十分に指示や教示が伝わるための約束について話し合った。

作成日 平成 ○年 ○月 ○日 <新規・更新(1 回)>

○○ 区・市町村立＊＊＊＊学校長 ○○ ○○
作成担当 ○○ ○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成 ○年 ○月 ○日氏名 ○ ○ ○ ○

支援の記録と評価（裏）

実施時期	担　当	内　容	評　価
H○4.10	校長、担任、通級指導学級○○教諭、母親、担任、通級指導学級○○教諭	・担任が替わったため、これまでの経過や支援内容について通級指導学級担任と保護者から情報を得た。 ・「個別の教育支援計画」「個別指導計画」を策定・作成した。	・聞こえにくさについての理解が深まった。 ・通級指導学級の○○教諭との連携深める必要がある。
H○.4.22	通級指導学級○○教諭	・児童のきこえのこと、補聴器のことについて学級で指導した。	・「聞こえない」ことの意味が他の児童にもよくわかった。 ・補聴器を他の児童もつけてみて調節の難しさが分かった。
H○.5.1	保護者、通級指導学級○○教諭、担任	・「個別の教育支援計画」「個別指導計画」の共通理解を図った。	・学級での聞き取りの大変さがわかった。
H○.5.16	担任 ＴＴ（国語）	・物語単元で段落の読み取りが難しい。 ・TTの○教諭が選択肢を出すと選べた。	・相手の気持ちを理解できるように教材の工夫等について検討した。
H○.6.11	○○スポーツ少年団○○コーチ、担任、校長	・土曜参観日に○○コーチが、児童や他の児童の様子を参観に来たので、児童の様子を聞き、学校での支援について話した。	・○○では、ﾃﾞｨﾌｪﾝｽとして頑張っている児童の様子がわかったので、学校の活動でも活躍する場を設定していく。
H○6.23	○○病院の言語聴覚士、○○スポーツ少年団○○コーチ、通級指導学級○○教諭、母親、担任、ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	第1回支援会議 ・「個別の教育支援計画」を策定した。 ・補聴器をつけていても安全に運動できるような支援の仕方について話し合った。	・児童を取り巻く支援についての共通理解が図れた。安全ベルトを母親が作り、補聴器がとれないことが実際の試合でもわかった。話し合って問題を解決することの重要性が感じられた。
H○7.15	通級指導学級○○教諭、担任	・学期末の評価について話し合った。	・国語の読解力は、当初に比べると向上していることが共通理解できた。
H○12.8	通級指導学級○○教諭、担任	・学期末の評価について話し合った。	・算数の文章問題や図形の問題についても支援をする回数が減ってきていることを確認した。
H○2.18	○○病院の言語聴覚士、○○スポーツ少年団○○コーチ、通級指導学級○○教諭、母親、担任、特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	第２回支援会議 ・次年度に向けての個別指導計画や個別の教育支援計画の作成・策定準備をした。 ・学校内やサッカーチーム内での活動の変化について話し合った。積極的に友達にかかわろうとしたり、学習でも読解力が向上していることを共通理解した。	・本人は、学習塾に通いたいという希望があるので、聴覚に障害のある児童を受け入れてくれるところを探す。

③　個別指導計画

○○立○○小学校

個別指導計画(○学期用)

氏　名	F	性別	在籍学級	○年○組
		○	担任氏名	○○　○○

本人・保護者の願い	
本　人	・勉強もがんばりたいし、サッカーもがんばりたい。 ・将来はサッカーの強い中学校に進みたい。
保護者	・難聴というハンデに負けずに、何事にも意欲的に取り組んでほしい。 ・サッカーをやりたいという気持ちを大事に育てていきたい。

	児童・生徒の実態と目標	支援のヒント	指導の手だてと評価
学習	年齢相応の学習に必要な言語能力を身に付ける。	・板書を多くし、視覚的にわかるようにする。 ・短冊を用いて、新出語句の指導を行った。	・漢字に関心が広がり、語いが増えた（国語）。
		・話すときは、短い文で区切るようにする。	・絵カードなどを使い、視覚的に説明した結果、答えを出す時間が早くなった（算数）。
		・話した内容や指示を理解できたか確認する。	・ビデオ教材やパソコンなどの視覚的教材を使用し、説明できるようになってきている（社会）。
			・リズムをとらえるようになった（音楽）。
			・質問等の意図を理解し、課題に取り組む時間が早くなった。
運動・動作			
生活	聞きやすい環境を作る。	・座席を前から2～3番目の中央にする。 ・集会時には本児の近くで内容を伝える。	☆教室以外での学習時の支援体制の設定する。 ・説明の内容通りに迅速に行動できるようになってきた。
対人関係	自信をもって生活できるようにする。	・できたことを十分認める環境作りをする。	・他の児童が積極的にかわるようになってきた。
学級経営	通級指導学級での様子を他児にも伝え、通級しやすい環境を作る。	通級指導学級での様子や学習したことを学習の[illegible]に学級全体に伝えていく。 ・児童のきこえのことや補聴器のことを他児に理解できるよう話す。	☆学級活動、道徳の時間を活用して、聴覚障害についての理解を図る。 ・今まで以上に、他の児童の発言が好意的になってきた。

学期の目標
・年齢相応の学習に必要な言語能力を身に付ける。 ・自己の目標に向かって積極的に物事に取り組めるようになる。

（3）　言語障害通級指導学級

①　児童Gの実態

生後まもなく口唇口蓋裂の手術を行い、その後も形成手術を繰り返してきた。手術後に誤った構音の習慣が固定してしまったため、○年○月より○年○月まで、○○病院の口腔外科で言語指導を受けていた。

小学校入学に伴い、○○病院からの紹介を受け、引き続き言語障害通級指導学級での通級指導による言語指導が始まった。学期中は、週１回、言語障害通級指導学級での指導を受け、半年に１回病院で構音のチェックと次の手術に向けての予定を立てるなど、病院と言語障害通級指導学級との連携が円滑に行われた。また、手術後の学校生活の過ごし方などは、通級指導学級と在籍校との連携を深めることによって円滑に行われた。病院、通級指導学級、在籍校の三者が一堂に集まり、話し合いの機会を作っていくことが今後の課題である。

実態把握表		○○立○○小学校 作成日：平成○年○月○日　記入者：○○○○
○　年　○　組　　氏名　G		担任名　○○○○
言語障害通級指導学級 （○年○月より入級）	○○立○○学校　担当者　○○○○	
生　活 安全・健康・持ち物管理など	・基本的な生活習慣はできている。	
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態など	・友達との関係は友好的で、休み時間には遊びの輪に入って仲良く遊んでいる。 ・活動に消極的で、人前ではなかなか声を出すことができない。	
学　習	【国語】漢字、文章の読み取りは学年相当の力がある。音読では発音が誤ることがある。 【算数】計算、図形問題などは学年相当の力がある。 【理科】実験には、積極的に参加しない。 【社会】調べ学習には、積極的に取り組むが、発表するのは苦手である。 【音楽】リズム感がよく想像力もある。歌唱は気持ちの課題もあり声が小さい。 【図画工作】創造性があり、絵画や工作は好きである。 【家庭】刺繍や調理は、積極的に活動する。 【体育】走る、跳ぶなどの力はやや低い。水泳は苦手である。	

② 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画(表)

通級指導対象児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな	○○○ ○○○	性 別	生年月日	○年 ○月 ○日生		
	本人氏名	G	○	保護者氏名	○ ○ ○ ○		
	住 所	〒○○○○○○○ ○○○○○−○○−○○					
	電話番号	○○○−○○○○		( )手帳	○級・度	(平成 年 月交付)	
	教育ニーズ	口蓋裂の既往があり、発音の誤りがあるため、言語障害通級指導学級での通級指導が必要である。					
在籍校	○○区立 ○○小学校 ○年 ○組(級)			学級担任	○○ ○○		
	住 所	〒○○○○○○○ ○○○○○−○○−○○		電話番号	○○○−○○○○	ファクシミリ	○○○−○○○○
前籍校等				学級担任		電話番号	

現在・将来についての希望	
本 人	・みんなの前でも堂々と発表できるようになりたい。
保護者	・小さい頃から入院が多かったので、のびのびと生活できるようにさせたい。

支 援 の 目 標

・構音の誤りを改善する。
・自信をもって活動できるようにする。

必 要 と 思 わ れ る 支 援

・言語障害通級指導学級での個別による構音指導の充実。
・発表する機会を多くする。

在 籍 校 の 支 援

・児童がのびのびと活動に取り組めるように、各教科や特別活動で支援する。
・通級指導学級での指導を十分に受けられるように、行事や教科の具体的な配慮をする。

支 援 機 関 の 支 援

通級指導学級	○○立○○小通級指導学級	通級開始 ○年 ○月	担当者:○○ ○○	連絡先:○○○−○○○○
	支援内容:	・構音に必要な口腔器官の運動能力を高める。 ・構音できる音を増やし、日常生活に般化させる。 ・医療機関と連携を取り合い、必要なケアを適宜受けられるようにする。		
家庭生活	支援機関: 支援内容:		担当者:	連絡先:
	支援機関: 支援内容:		担当者:	連絡先:
余暇・地域生活	支援機関: 支援内容:	○○学習塾 ・学力の向上を図る	担当者:○○ ○○	連絡先:○○○−○○○○
	支援機関: 支援内容:		担当者:	連絡先:
医療・健康／教育相談等	支援機関: 支援内容:	○○病院口腔外科 口腔器官の状態の経過観察及び手術の計画	担当者:○○○○先生	連絡先:○○○−○○○○内線○
	支援機関: 支援内容:		担当者:	連絡先:

支援内容の評価と課題

・通級指導学級との連携により、児童はのびのびと学校生活を送ることができた。特に、委員会では委員長となり、みなの前で、堂々と発表していた。通級指導学級では、ほぼどの音も正しく構音できるようになり、日常生活での練習に移行した。

支援会議の記録(予定も含む)

日時○年○月○日	参加者)在籍校○○、通級指導学級○○教諭、保護者、○○病院○○(ST)	協議内容・引継事項等)発表する機会が多くなり、心理的な負担を感じないように配慮しながら自信を持たせていくことを話し合った。

作成日 平成 ○年 ○月 ○日 <新規・更新(回)>

○○ 区・市町村立＊＊＊＊学校長 ○○ ○○
作成担当 ○○ ○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成 ○年 ○月 ○日 氏名 ○ ○ ○ ○

③　個別指導計画

○○立○○小学校

個別指導計画(○学期用)

氏　名	G	性別	在籍学級	○年○組
		○	担任氏名	○○　○○

本人・保護者の願い	
本　人	・何事にも積極的に取り組む。 ・漢字検定５級に合格したい。
保護者	・小さい頃から入院が多かったので、のびのびと生活できるようにさせたい。

	目標	支援のヒント	指導の手だてと評価
学習	音読の際に発音を意識せずに堂々と声を出せるようにする。	・音読では友達と斉読の形も負担を少なくする。 ・通級指導学級で自信をつけた音は音読の際、気を付けて聞き、認める声かけをする。	☆毎日音読練習をする。 ・相手に伝えるようにゆっくりと読むようになった。
運動・動作			
生活			
対人関係	自信をもって生活できるようにする。	・できたことを十分認める環境作りをする。	☆委員会活動での発表させる。 ・児童会で堂々と話せるようになった
学級経営	通級指導学級での様子を他児にも伝え、通級しやすい環境を作る。	・通級指導学級での様子や学習したことを学習の際に学級全体に伝えていく。	☆学級活動等で障害につい話す。 ・他の児童のかかわりが多くなってきた。

学期の目標
・各教科、特別活動で、のびのびと活動に取り組めるようになる。 ・委員会活動で自信をもって取り組めるようになる。

（4） 情緒障害通級指導学級

① 生徒Hの実態

小学校3年生時に○○○○クリニックで、情緒的な不安定を指摘され、朝と昼の投薬を開始した。在籍校での対人関係のトラブルはしだいに減少してきたが、授業中の大声はあまり減少しなかった。小学校6年生になるとトラブルと大声は減少し、2学期より投薬は朝の1回となった。本人・保護者とも中学校での通級指導継続の希望があり就学(入級)相談の結果、○○中学校の通級指導学級への入級が決定した。主治医の判断で中学入学時より投薬はやめている。

実態把握表	○○立○○中学校 作成日：平成○年○月○日　記入者：○○○○
○　年　○　組　　氏名　H	担任名　○○○○
情緒障害通級指導学級 （○年○月より入級）	○○立○中学校　　担当者　○○○○
生活面 安全・健康・持ち物管理など	・元気に学校生活を過ごしている。 ・目に付くことは何にでも興味を示す。 ・靴のひもがほどけていたり、ワイシャツの裾が出ていたりしている時がある。 ・偏食があり給食を残すことがある。
社会性 対人関係・言語による意思の疎通・交流の実態など	・友達に自分からかかわろうとしている。 ・静かな環境では、安定している。 ・気になることがあると落ち着かず、大きな声を出してしまう。 ・場面の状況が理解できず、不安な表情を見せることがある。
学習面	・学習は、真面目に取り組むが、授業中すぐに発言してしまう。 ・周囲の音が気になり、集中できない時がある。 ・授業中に時々、急に大きな声を出すことがある。 【数学】計算力はある。 【理科】実験は、意欲的に取り組む。 【保健体育】体を動かす活動は、苦手である。
その他	・休み時間は、一人でいることが多い。 ・運動会への苦手意識をもち、入学直後から運動会のことを気にしている。 ・教科係の仕事は、積極的に行い、下校前の学級活動では、必ずクラスで教科の連絡をしている。 ・班での話し合いが苦手で、一方的に話をすることがある。 ・将来は、科学者になりたいと考えている。

② 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画（表）　通級指導対象児童・生徒用

本人・保護者	ふりがな	○○○ ○○○	性 別	生年月日	平成○年○月○日生		○ 歳
	本人氏名	H	○	保護者氏名	○○ ○○		
	住 所	○○○○ ○−○−○					
	電話番号	○○○−○○○−○○○○		（　　）手帳	級・度	（平成　年　月交付）	
	教育ニーズ	・自己表現力が弱く、対人関係をうまくつくれない。 ・情緒的な不安定と場面の状況を的確につかめないため通級指導が必要である。					
在籍校	○○○立 ○○○ 中学校 ○ 年 ○ 組（級）			学級担任	○○ ○○		
	住 所	〒○○○○○○ ○○区○○ ○−○−○		電話番号	○○○−○○○○	ファクシミリ	○○○−○○○○
前籍校等	○○立○○小学校			学級担任	○○ ○○	電話番号	○○○−○○○○

現在・将来についての希望	
本 人	・将来は科学者になりたい。 ・友達と上手くつきあいたい。
保護者	・状況判断ができるようになってほしい。 ・自分の気持ちを表現できるようになってほしい。 ・将来は、周囲の人達と関係をもちながら、特技を生かした仕事についてほしい。

支援の目標

・在籍校、通級指導学級、地域生活等において、自己有用感と自己評価を高めるように支援をする。

必要と思われる支援

・通級指導学級での個別の教育的支援を行う。（特にソーシャルスキルトレーニングと自己表現力）
・地域の活動に家族そろって参加できるようにする。
・医療機関との連携を密にする。
・関心の高い理科の学習の体験機会を増やす。

在籍校の支援

・学級内の生徒及び校内の教職員との信頼関係づくりをする。
・視覚的支援に基づいた学習環境の整備と教材・教具の工夫をする。（掲示物、板書、座席位置、パソコン活用等）

支援機関の支援

通級指導学級	○○立○○通級指導学級	通級開始　○ 年　○ 月	担当者：○○○○	連絡先：○○○−○○○○
	支援内容：	◎週1回5時間通級　目標・・コミュニケーションスキルの獲得、自己表現の育成、場面の理解 ・朝と帰りのミーティング（めあての設定と自己評価、1分間スピーチと質疑応答等） ・教科の補充学習（国語と数学の基礎的学習）		
家庭生活	支援機関： 支援内容：	○○地域センター ・月1回、バーベキューやスポーツチャンバラ等に家族そろって参加する。	担当者：○○ ○○	連絡先：○○○−○○○○
	支援機関： 支援内容：		担当者：	連絡先：
余暇・地域生活	支援機関： 支援内容：	○○道場 ・週2回、地域の仲間と合気道を練習する。	担当者：○○ ○○	連絡先：○○○−○○○○
	支援機関： 支援内容：	△△地域センター ・週1回、科学教室に参加する。	担当者：○○ ○○	連絡先：○○○−○○○○
医療・健康／教育相談等	支援機関： 支援内容：	○○○○クリニック ・月1回の通院、発達課題のアドバイスを受ける。	担当者：○○ ○○	連絡先：○○○−○○○○
	支援機関： 支援内容：		担当者：	連絡先：

支援内容の評価と課題

・月1回の○○地域センターでの活動は、家族間のコミュニケーションを豊かにしている。
・科学教室では、目を輝かせて取り組んでいる。

支援会議の記録（予定も含む）

日時 平成○年○月○日	参加者）　保護者、担任、特別支援教育コーディネーター、通級指導学級○○教諭、○○地域センター担当、○○道場担当	協議内容・引継事項等 各支援機関での様子を振り返り、支援内容や援助方法について相互に意見交換を行った。

作成日　　平成　○年○月○日　　<（新規・更新（　回））>

区・市町村立＊＊＊＊学校長
作成担当　　○○○○

私は、以上の内容を了解し、写しを支援機関に渡すことについて同意しました。

平成　年　月　日　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③　個別指導計画

○○立○○中学校

個別指導計画(○学期用)

ふりがな 氏　名	H	性別	在籍学級	○年　○組
		○	担任氏名	○○ ○○

本人・保護者の願い	
本　人	・自分の気持ちを上手くコントロールしたい。 ・友達と上手くつきあいたい。 ・将来は科学者になりたい。
保護者	・状況判断ができるようになってほしい。 ・自分の気持ちを表現できるようになってほしい。 ・将来は周囲の人たちと関係をもちながら、特技を生かした仕事についてほしい。

児童・生徒の実態と目標		支援のヒント	指導の手だてと評価
学習	安心感をもって学習する。	・授業内の場面設定を明確にする ・得意な理科の実験等で賞賛する。 ・板書の仕方を工夫する。 ・総合的な学習の時間のテーマ決定では、科学的な課題にすることを指導する。また、図鑑やパソコンソフトを活用し、視覚的にとらえやすいようにする。	☆落ち着かず大きな声を出す場合には２階の小教室でクールダウンさせ、授業のない学年教員が対応する。 ・理科以外の授業でも積極的に発言するようになってきた。 ・パソコンを活用する機会が増えてきた。
運動・動作	６月の運動会に安心して参加する。	・運動会までの練習内容(日時と場所も)を分かりやすく掲示する。 ・学年種目の練習を通して、学級内の仲間を育てる。	☆変更がある場合には個別に声かけをしてから変更する。 ☆個別に対応できるよう副担任と協力する。 ・他の生徒がかかわるようになってきた。
生活	身だしなみに気を付けようとする。	・標準服の着こなし方のイラストを教室内に掲示する。 ・鏡を見て、身だしなみや服装に気を付けるようにする。	☆その都度、声かけをする。 ・髪型や服装に気を付けるようになってきた。
対人関係	学級や班の活動を通して仲間意識をもてるようにする。	・話し合いの場面では、テーマを掲示し発言者の発言内容を簡潔に板書する。 ・課題にあった役割を与え、責任をもってやり遂げようにする。	☆クラス全体の中で評価する。 ☆まだ、簡潔にまとめて発表するのは難しい。
学級経営	見通しをもって課題探究学習をする。 相談できる環境をつくる。	・図鑑やパソコンソフトを活用させる。 ・年間の予定をクラスに掲示し、発表会の日時と方法も記載しておく。	・予定を見て、活動するようになった。 ・国語の教員に相談する回数が増えた。

学期の目標
・中学校の生活に慣れ、安心して学習に取り組む。 ・困った時は担任や教科担当者に相談をする。 ・少しずつ自分の気持ちを表現できるようにする。

Ⅳ　研究の成果と課題

1　研究の成果

「個別の教育支援計画」の書式等の作成を通して、以下のような課題を解決できることが明らかとなった。

（1）　児童・生徒が必要とする支援を様々な生活場面で明確化できる。

（2）　校内や支援を行う関係機関で児童・生徒についての共通理解を図ることができる。

（3）　教育、保健・医療、福祉、労働等を含めた新たな地域ネットワークを構築することができる。

今回、開発した「個別の教育支援計画」の２つの書式に関しては、事例にみるように固定学級や通級指導学級の児童・生徒の多様なケースに対応できることが明確となった。対象となる児童・生徒や具体的な教育ニーズによっては弾力的に活用することも必要となってくるが、事例にあるように、通級指導学級を支援機関として位置付けているため、「通級指導対象児童・生徒用」を工夫すれば通常の小・中学校などでも利用することが可能である。また、「個別指導計画」との関連では実例として８ケースを取り上げたが、「個別の教育支援計画」が「個別指導計画」の充実や授業改善にも、以下のようにつながることが明確となった。

（1）　本人・保護者の希望が明確になり、より具体的な目標設定が可能となる。

（2）　前籍校や関係機関との連携の中で、より効果的な指導が可能となる。

（3）　支援機関の中で情報を共有できるので、目標や手だてを臨機応変に変更・修正できる。

2　課題

多様な障害種別や地域の特性に応じた支援機関の種類・機能はそれぞれ違いがある。

そのため、「個別の教育支援計画」は、障害種別や地域の特性に合わせ、地域の支援機関と十分に検討を重ね策定していく必要がある。

（1）　校内委員会の定期的な開催

会議設定が難しい中、校内委員会を生活指導委員会等の校務分掌と連動させ、定期的に開催する必要がある。共通理解された内容は、「個別指導計画」に記載し、交流及び共同学習の指導に活用できるようにしておく必要がある。

（2）　特別支援教育コーディネーターの役割

特別支援教育コーディネーターが、校内のコーディネートを行う。また、特別支援教育にかかわる研修や通級指導学級や専門機関との連携をしていく中で、専門性を高めていく必要がある。

（3）　在籍校の担任と通級指導学級担当者との連携

現状では、通級指導学級の担当者が、教育課程や「個別指導計画」の原案を作成し、在籍校の担任に提供している。今後、在籍校の担任が中心となって、「個別の教育支援計画」や「個別指導計画」を策定・作成していくためには、いままで以上の連携と情報交換が必要となる。また、支援会議についても同様である。